

傳習館



東京同窓會會報

第14号 2014.1.1



特集「御花」
追悼・松永副会長
修学旅行生との交流会
バレーボール部裏話
ふるさと邪馬台国考

柳河御花 寶館名 旧立花侯爵邸

岳堂 石川忠久

夜來霖雨霽

夜來やらい 霖雨霽りんうは

苑樹色逾鮮

苑樹えんじゆ 色逾いよいよ鮮せんかなり

伊昔諸侯地

伊こ昔しよ諸侯こうの地

于今小洞天

今こに于おいて 小洞天どうてん

蟬聲入風和

蟬聲ぜんせい 風に入いつて和わし

鳥影逐雲連

鳥影ちやうえい 雲を逐おうて連れんなる

午有詩文會

午ごに詩文しぶんの會かい有り

執毫先染箋

毫かを執とりて先せんづ箋せんを染そむ

注 ・霖雨・長雨 ・洞天・仙人のいるところ。理想郷

「本詩は平成二十五年九月発行の「斯文」第一二三号に掲載されたものを作者の許可を得て転載しました」



石川忠久先生

公益財団法人斯文会理事長
全日本漢詩連盟会長
元二松学舎大学学長
NHKテレビ『漢詩への誘い』講師他
東京大学文学部中国文学科卒

紹介

編集子・小野善睦

昨年の夏、石川先生が柳川に來遊され『御花』に宿泊された折の作詩と承りました。昨年の夏といえは特別の猛暑で「蟬声風に入つて和し」と、サラリと詠つておられますが、地元の方でさえ、あのワシワシ(クマゼミ)の鳴声は、暑さを増幅し、ウンザリするものです・・・さすが詩人ですね。今度は是非「客舎青青柳色新」な五月ごろの、柳縁水明の季節に再度來柳され、觀光目玉のどんこ舟での「川下り」を楽しんで頂きたいと切望します。また藩儒・安東省庵一族の墓域「三忠苑」もお訪ね下さい。きつと、更なる名詩が誕生するでしょう。

自慢話で恐縮ですが、石川先生が「全日本漢詩連盟」を立ち上げられ会長に就任されて、その記念すべき「全日本漢詩連盟会長賞」第一号を受賞したのは誰であろう私の次の詩でした。昨年五月「御花」での伝習館高二卒傘寿同期会にて同期の小宮昌子さんが、壇上朗々と吟じてくれました！(エヘン！笑)

柳川好

斜庵・小野善睦

渡水看花復看花

水を渡り 花を看 復た花を看る

晴光七十二橋斜

晴光七十二橋 斜なり

春風八里扁舟路

春風八里 扁舟の路

自到舊時詩聖家

自ら到る 旧時詩聖の家

第14号 2014.1.1

東京同窓会本部より

平成 26 年 年頭の挨拶	会長 江崎 正直	2
松永副会長への弔辞	会長 江崎 正直	3
松永副会長の死を悼む	高 5 岸 栄洋	3
平成 25 年度修学旅行生との交流会	高 21 白谷 政則	5
交流会を充実させよう	会長 江崎 正直	7
平成 26 年度東京同窓会総会開催のお知らせ		7
賛助金ご協力状況報告		8
賛助金通信欄コメント		9
東京同窓会決算収支報告書		10
学年幹事会報告(続き)	高 21 白谷 政則	10

母校だより

平成 25 年度進路状況		12
--------------	--	----

先輩・後輩より

バレーボール部裏話	高 4 倉本 博子	12
伝習館創立 190 周年と柳川観光大使	高 5 下河 秀行	14
どんど(ドンドン)焼き	高 11 龍 勝	15
ふるさと邪馬台国考	高 11 岡 辰彦	16
私の風の又三郎	高 14 高木 節子	18
白寿の母 柳川の思い出	高 12 滝口 晴夫	20
青春のパイプライン(映画篇①後篇)	高 18 福山 博彰	20
柳川市街の航空写真	高 18 十時 理展	22

学年幹事より

高 3 回生青春の契(ちぎり)・「二人展」と同期会	高 3 酒井 清行	24
高 5 回「ふくの会」	高 5 野口 幹彦	25
高 6 回「三稜会」	高 6 石橋 修	26
高 12 回生同期「くっぞこ会第 30 回」開催	高 12 小野アケミ	26
高 13 回生同期会	高 13 田中 利道	27
高 20 回生同期会開催「なんしよる会」	高 21 白谷 政則	27

ふるさと瓦版

広報みやまより一新開能		28
広報みやまより一長唄「柵屋勝国」帰郷公演		28
市報おかわより一新市長誕生		28
広報やながわより一特集/柳川の御花		29

新刊紹介

江崎正直著『海外・四方山話』	31
市史新刊一「柳川市史『資料編Ⅱ』・柳川文化資料集成第 3 集 -3『柳川の美術Ⅲ』	31
編集後記	32

伝習館



東京同窓会会報

東京同窓会本部より

平成 26 年年頭の挨拶

伝習館東京同窓会 会長 江崎正直

会員の皆さん！新年あけましておめでとうございます。

今年は2年に一回の総会の年で、7月6日（日）に開催の予定です。

総会に先立つ講演会は、柳川古文書館の田淵義樹副館長にお願いして「安東省菴と朱舜水」の演題で講演頂くことになっています。安東省菴〈1622～1701〉は江戸前期の儒学者で、柳川藩に仕えていました。朱舜水〈1600～1682〉は明末の儒学者で浙江省余姚の人です。実学を重んじ、礼法や建築にも精通していました。明の再興を企てて成らず、1659年日本に亡命・帰化し、徳川光圀〈1628～1700〉に招かれて江戸（東京）へ行きました。安東省菴は来日した朱舜水を長崎に訪ねて師事し、江戸に行くまでの6年に亘って自分の俸禄の半分を贈って朱舜水を助けました。安東省菴に感謝した朱舜水は江戸へ行くに当たって、明から大切に持参した孔子像三体を贈って安東省菴の好意に報いました。その一体が伝習館の三稜会館に保存されています。伝習館のルーツは安東省菴にあります。この貴重な講演を一人でも多くの会員が聴講されるよう希望します。

伝習館修学旅行生交流会が、去る9月17日、順調に開催されました。これまで、交流会の正味時間が、1時間で足りなかったのが1時間30分交流できるようになり、適正な時間が取れたからです。生徒の大半は東京へ来るのが初めてなので、前回までは18時30分の予定時刻にホテルへ帰れない生徒がかなりいました。今回は全生徒がスマートフォンを持参、そのナビを使って帰ってきたので、全員が定刻の18時30分にホテルへ帰り着くことが出来ました。最新兵器の威力を見せ付けられました。前回と同じく今回も、現役の大学生を始め、若い同窓生が多数参加してくれたお蔭で盛会でした。詳細は本文「交流会を充実させよう」をご参照ください。

今年も正月明けにこの会報第14号が届きます。出版に相当の費用が掛かりますから、一人でも多くの方に賛助金を納入頂くようご協力をお願いします。

お互いに健康で良い年にしましょう。

弔 辞

伝習館東京同窓会を代表して、松永さん、謹んであなたのご霊前にお別れの言葉を申し述べさせていただきます。余りに突然のお知らせに接して、まだ気持ちの整理がつかずにおります。こうしてあなたの御遺影を見上げ、お別れの言葉を述べなければならぬことが、まだ信じられません。

亡くなられた翌日の朝、奥様から「主人は昨夕亡くなりました」とのお電話を突然、お受けして「それはウソでしょう」と私は言いかけました。と申しますのは、前日、すなわち、あなたが亡くなられた日のその朝、あなたから直接お電話を頂戴し、次回の学年幹事会などについて打ち合わせたばかりでしたので、一瞬、自分の耳を疑いました。奥様から亡くなられた経緯をお聞きして、あなたが黄泉の国へ旅立たれたのが現実であるのを納得できました。私どもの年齢になれば、明日のことはわからないと如実に痛感致した次第です。

松永さん！ あなたには大変お世話になりました。あなたは自らは極めて厳しいにも拘わらず、他人に対しては誠に寛大で、気さくで飾らない人柄は、親しみと信頼を与えるものでした。伝習館東京同窓会に全くズブの素人だった私が十年

前、江口前会長さんより会長職を引き継ぎましてから、松永副会長さんにご支えられて職責を全うすることが出来ました。あなたは伝習館高校から大学を卒業されてホテル・グランドパレスに就職され、業務の傍ら、伝習館東京同窓会事務局を長年担当されて、今では大同窓会に発展させられました。伝習館東京同窓会の中心人物だった惜しい人材を失って、私どもは残念の一語に尽きます。

同窓会本体のお世話に加えて、大先輩方が六十年前に創められた同窓生の月例昼食会「みろく会」のお世話も、あなたが長年に亘って熱心によつてこられたのには全く頭が下がります。みろく会の名称は、故郷の有明海で捕れる高級な貝の「みろく貝」に由来します。「みろく」は「三六」なので三×六で毎月、十八日の十二時から十四時まで昼食会を持つて参りました。

伝習館東京同窓会に最も習熟して、知り尽くしておられた有為な人材を失って、まことに痛恨の極みですが、あなたのご意志を受け継いで、これからも伝習館東京同窓会の発展を進めていきたいと思えますので、黄泉の国から見守って下さい。

今は只、心からの尊敬と感謝を捧げ惜別の言葉と致します。

合掌

平成二十五年七月四日

伝習館東京同窓会

会長 江崎正直

松永副会長の死を悼む

高5 岸 栄洋

それは余りにも突然の死でした。彼は昼間家の近くまで出かけ、倒れられました。周りの人々が気付き尋ねましたが、そのときはちゃんと住所氏名を名乗られたようです。悦子夫人が急いで駆けつけ、救急車で病院に向かおうとしましたが、途中で意識を失い絶命したそうです。痛ましい最期でした。

私は松永君と柳川小学校も柳城中学校も伝習館でも同じ同期の高校5回卒業生です。子供のころは仲良く一緒に川で泳いだ事もあります。在学中彼はもっぱら硬式テニス部で活躍していました。卒業後私が東京に転勤になり、高5回卒業同期会（ふくの会）を昭和49年に立ち上げた事から、東京同窓会に熱心だった松永君との縁が深まり学年幹事となりました。今でも元気な頃の姿が思い浮かび、亡くなられた事が信じられません。

平成25年7月3日に通夜が、7月4日に告別式が自宅に近い我孫子セレモニーで、しめやかに行われました。祭壇は綺麗に飾られ、多くの人々からの供花に囲まれていました。式典は身内だけで質素にと悦子夫人の意向もありました。会葬者の列は長く続きました。

色々な方面からの会葬者がありました。目だったのは同窓会関係者でした。江崎正直会長には告別式で心の籠った弔辞を頂戴しました。（上記掲載）

原田万紗子副会長始め、多くの学年幹事の皆さんにご参列頂きました。立花家第17代当主立花宗鑑氏にもご会葬頂きました。

これだけ多くの同窓会関係者にご会葬頂いたのはわけがあります。それは彼が40年近い間伝習館東京同窓会の運営に携わり、生き字引として役立ってきたからです。

初めはホテルグランドパレス総務担当兼伝習館東京同窓会事務局担当として、後では伝習館東京同窓会副会長として。

松永君の伝習館東京同窓会に於ける活躍を、特にそのために書いたものはありませんが、彼が伝習館諸先輩の活躍を記した（東京に輝ける三稜の星たち（東京同窓会の歩み））がこの会報に毎号掲載されており、彼の活動も自ずと知る事ができます。それによりますと、伝習館東京同窓会事務局を担当し始めたのは、昭和48年5月の総会の準備からでした。彼はホテルグランドパレス総務に所属しており、毎月開かれる柳川藩ゆかりの人々の集まりである「みろく会」（殆どが伝習館卒）の事務方をしていました。当時の伝習館東京同窓会長宮崎駒吉氏（元三菱電機社長）や副会長の立花盛枝氏（ホテルグランドパレス副社長総支配人）は

じめ多くの諸先輩が参加していましたが、ここでしばらく中断していた伝習館東京同窓会総会の再開と、松永君の事務局担当が決定しようです。引き受けはしたものの経験は無く、ちゃんとした名簿も資金の蓄えも無い上、雲の上の上司の指示とはいえホテルの通常業務もそれなりにやらねばならず、大変苦勞をしながら無事総会にこぎつけたようです。爾

来困難はありましたが二年に一回の総会を開き続けました。宮崎会長の体制は昭和54年までで、56年からは古賀繁一會長（元三菱重工業社長）、副會長に立花盛枝、宮崎あさ（前會長夫人）の両氏となりました。松永君の事務局担当は続きます。この人事は「みろく会」で宮崎駒吉氏の發議で円満に決定しています。古賀繁一會長はこの後約15年間に在任され大いに指導力を發揮されました。その一つが記録映画（柳川堀割物語）の映写会の開催です。動画界で有名な宮崎駿氏が、柳川の堀割から水と都市と人間の、深い關係に興味を持って作成したものです。柳川出身の人々に見てもらいたいと、永江秀作君（松永君や私の同期）の持ち込んだもので、古賀會長は話を聞いて、自ら試写会に参加し、感激して貸切りによる無料映写会の立案を松永君に命じました。松永君は喜んで企画書を提出しましたが古賀會長は見積金額に20万上乘せし、金額を負担するが金の出所を伏せて実行するよう命じました。昭和62年7月

18日当日、大手町の日経ホール（定員1000名）は満員の盛況で松永君は痛く感激したそうです。

平成2年正月のサッカー全国大会出場の時も大変でした。同期の永江秀作君と本吉湊君（柳川の幹事）から続けて連絡が入り、11月に全国大会出場が決まり、正月早々に試合が関東地区で行われる予定で、柳川の同窓会も大変な盛り上がりとの事でした。早速古賀會長やいつも同窓会でお世話になっている有志の方々と相談して、11月17日に福岡県立伝習館高等学校サッカー部全国大会出場東京同窓会後援会準備委員会を発足させました。ここで案を練り協議した結果、11月27日に古賀會長以下35名の参加を得て後援会を正式に発足させました。この下に行き委員会を設け更に募金部会、歓迎部会、応援部会を置きました。正副の長及び部員の顔ぶれを見ると松永君の人脈の広さを知る事が出来ます。各部会との連絡は事務局である彼が当りました。実行までたった1ヶ月しかなく大変だったようです。大会は無事終了しました。結果は2回戦対星陵3・3PK勝ち、3回戦対桐蔭0・4負けでした。両日とも1000人を超す大応援団になりました。私も2回戦の応援に参加しましたが大変感激しました。

平成4年12月に古賀會長は逝去されました。平成6年1月の100周年記念事業を控え、後任選びが大変だったよう

す。古賀會長が生前から囑望されていた方は不治の病を患われており、他の方々も他校の同窓會長をしておられたりして駄目でした。

結局旧制佐賀高校の東京同窓会支部長をなさっていた江口三千雄氏（旧三井金属鉱業常務取締役）を、松永君の人脈を使って説得したのでした。副會長は會長の要望で古賀弘子氏（前會長夫人）に決まりました。伝習館創立170周年（県立移管100周年）記念事業は無事完了し、柳川で盛大な式典が行われました。江口新會長の御意向もあり、東京でも同窓会総会を盛大にやろうという氣運になりました。平成6年4月23日の記念総会は、景流実演（柳川藩伝承の古武道）や岩下智子（フルート）や筑場亮子（声楽）の催物が付いた賑やかなものとなり、参加者も370人を越えました。

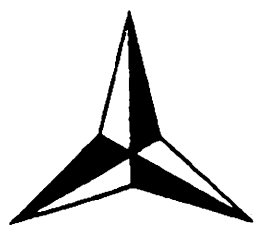
永らく東京同窓会を蔭で支えてきた松永君でしたが、二年後に勤務するホテルグランドパレスの定年を控え、事務局を続けられないと思われました。そこでみるく会で大変協力されている立花家の次女（原田万紗子氏（高13回卒）が駒込駅前に東京本店のある銘菓千鳥屋に嫁いでおられるのに氣付き、事務局の移転を頼み込みました。正式には平成8年に江口三千雄會長と古賀弘子副會長に加え江崎正直副會長（旧三井東圧化学常務）と原田万紗子事務局長を選ぶ事が決まりました。松永君は事務方として残り残りましたが

名簿等の事務局の引継ぎはシステムの違いもあり軌道に乗せるのが大変だったようです。

新しく就任された江崎副會長は東京同窓会の活性化を旗印に、会則の制定と名簿の把握、組織的運営のための学年幹事の発足、財政基盤確立のための会員からの賛助金の徴収、会員相互の情報を密にする会報の発行など、次々と方向を打ち出されました。程なく（平成12年）江口會長が退かれ、江崎正直會長、松永副會長、原田万紗子副會長の現体制になりました。松永君は文字どおり江崎會長の片腕となって支えました。温厚な人柄で紛糾する学年幹事会をまとめ、新しく始められた伝習館修学旅行生と卒業生との交流会にも積極的に参加して押し進めました。昨年の交流会を間近かに控えて、亡くなられたのは残念でなりません。

伝習館東京同窓会は貴重な経験豊かな人材を失いました。心からご冥福をお祈り申し上げます。

以上



この交流会は、母校の高校生達が将来の進路を決める時、何かのきっかけになればとの考えで始められ今年で十回目になります。数年前からできるだけ高校生に近い大学生や若い人に呼びかけ、今年も約30名に参加してもらいました。

日時

九月十七日(火)

19:00~21:00

場所

リーガロイヤルホテル東京(早稲田)

出席者

高校生 240名(約40名×6クラス)

ス)

先生 10数名

卒業生 43名

シニア 7名(中55、高2~高14)

中堅社会人 7名(高18~高32)

若手社会人 11名(高51~高59)

大学院生 2名(高59)

大学生 16名(高61~高64)

交流会は二時間の予定ですが、セレモニー等もあり正味90分です。クラス毎に分かれまず卒業生の簡単な自己紹介、若手社会人や大学生が率先してリードし高校生が話しやすいような雰囲気での交流会が始まりました。

高校生に人気のあった卒業生の経歴と高校生からの質問を紹介します。

大学生

高校時代は交流会で全然発言できなかったが東京に出てきて積極的にになった。また、積極的になければおいて行かれると感じている。

・どうすれば積極的になりますか？

・自分でどう変わったと思いますか？

若手社会人 メガバンクに就職したが数年で退社、友人と貿易会社を起業。現在スリランカから土を輸入し農業(土壌改良)・建築・住宅関連の会社と取引。

・せっかく大企業に就職したのに不安はなかったですか？ 将来の夢は何ですか？

若手社会人 九大も合格したが海上保安学校へ進学した。挫折し中退、航空保安大学(学費無料・給与支給)卒業、現在航空管制の仕事に従事。

・挫折してもやり直す強い心になるには、どうすればいいのですか？

・親に負担をかけない進路についてもっと詳しく教えて下さい。

東京に出て積極的になった、自分のやりたい事をやる、挫折してもやり直す、親に負担をかけない進路、高校生から

親に負担をかけない進路、高校生から

て興味ある事、身近な先輩の実体験について真剣な表情で聞き入っていました。そのほか高校生からの主な質問です。(皆さんも高校生に適切なアドバイスができるか考えてみてください)

高校生活について

【高校生からの質問】

・勉強と部活、両立できましたか？どちらに重きを置きましたか？

・高校時代、勉強以外で一番頑張ったことは何ですか？

・大学の進路で興味と成績どちらを重視すべきですか？



大学生活について

・大学進学を東京にした理由は何ですか？

・大学生活で楽しいこと、辛いことありますか？

・大学の勉強は高校とどう違いますか？

就職、仕事について

・やりたい事と経済的な事どちらを重視しましたか？

・就職活動の時、最も心がけた事は何か？

・今の仕事でよかった事、苦勞した事は何か？

・現在の仕事で大学の勉強は役だったか？

交流会を充実させよう

会長 江崎正直

この十年来、伝習館東京同窓会は毎年修学旅行交流会を開いている。修学旅行生が東京到着日の夜、東京在住のOB有志が宿泊ホテルの早稲田リーガロイヤルホテルに集まって、修学旅行生との対話交流をはかるもので、19時30分～21時00分までやってきた。会の最初と最後に挨拶の時間が15分程度入るので、実質の交流時間は1時間に絞られる。OB側から「対話の時間が少し足りない」との不満が、2、3年前から出ていた。生徒が夕食を取ってホテルへ帰るのが18時30分、交流会開始が19時30分になっているから、開始時間を19時にしてはどうか、というのがOB側からの要望である。

8月末、伝習館第2学年の中村学年主任からメールが入った。「来る9月17日はお世話になります。19時30分からの交流会を直しく」とのこと。これに改めて江崎から三宅館長先生と中村学年主任宛に「受け入れのOB側としては、19時30分開始では時間が足りないのでは、開始を19時ちょうどにしてもえませんか」と要望を入れた。それに応えて「生徒が遅れて帰ってくる者がいるから、全員揃うのに余裕を取って19時30分になっている。若干は早めるよう努力したい」との返事が返って来た。

9月17日の当日になった。ホテルへ行ったら18時30分頃にはOB側が40名余揃って、生徒達を待っていた。18時40分頃になって大半の生徒が揃い、18時50分頃中村主任から「生徒は全員揃いました」。びっくりした。昨年までは考えられなかった。願ってもないこと。「例年より30分以上も早く、生徒達をきちんと揃えるにはどうされましたか」と問うたら「今年から全員にスマートフォンを持たせました。生徒の大半が東京は初めてなので、ナビを見ながら18時30分にはホテルへ帰って来い、と厳命を下しておきました。」

最新情報機器の威力はすごい。お蔭で平成24年より30分早く、19時ちょうどから交流会を始めることが出来た。正味の交流時間を1時間30分取れたので、OB同窓生・生徒の双方で満足な交流会が持てた。生徒は6組の総員240名である。

会場で出会った生徒たちが皆、男女を問わず笑顔で「今晚は」と挨拶する姿に接し、心から好感が持てた。伝習館の校則「明朗・誠実・剛健」の第1項を実行している。一期一会なるがゆえに感激した。

あらかじめ事務局で「各組の担当OB 7名の組別表」と「過去の交流会での生徒側からの質問表」を準備して各OBへ配布していたので、交流会は順調に進められた。各組がさらに2～3グループに

小さく分かれてやっていた。マイクがないから、少人数の方が対話を順調にすすめることができる。

数年前から大学生、20歳代の社会人、つまり若手が交流会に参加するようになった。今年も若手の参加者が増加してOBの半数以上を占めるに至った。生徒達も年齢差の少ない方が話しやすいように

ある。スマホを使って定刻に集合し、正味1時間30分の交流会が今後定着するとういう実績が出た。これからの東京同窓会の活性化へとつなげていきたい。

画期的な交流会が持てたことについて、関係者に厚く御礼を申し上げたい。

(2013年9月)

平成26年度 東京同窓会総会開催のお知らせ

最近の同窓会は、イベントも充実しており、会場では笑顔で旧交を温める人の輪があちこちに出来、楽しいひと時を過ごせるようになったと喜びのお言葉をいただくようになりました。

今年も同窓会総会を開催いたします。皆様お揃いでご出席くださいますようお願いいたします。

日時 平成26年7月6日(日曜日)
午前11時～午後2時30分(予定)
場所 ホテルグランドパレス「2階ダイヤモンドルーム」
千代田区飯田橋1-1-1(地下鉄九段下車)
会費 男性10,000円 女性9,000円 学生無料

講演会(午前11時～12時) 講師 田淵義樹氏
テーマ「安東省菴と朱舜水」

安東省菴は江戸前期の儒学者で、柳川藩に仕えていました。朱舜水は明の有名な儒学者です。明が滅びたので、1659年、日本に亡命・帰化しました。省菴は来日した朱舜水を長崎に訪ねて師事し、自分の俸禄の半分を贈って6年に亘り、朱舜水を助けました。舜水は水戸光圀に招かれて江戸(東京)へ行くに当たり、明から大切に持参した孔子像三体を贈って、省菴の好意に報いました。その一体が伝習館の三稜記念館に保存されています。藩校・伝習館の祖に当たる安東省菴について、柳川古文書館・田淵義樹副館長にご講演していただきます。ご期待下さい。

余興
今回は高校25回卒のみなさんが中心となって検討しております。

お楽しみ抽選会
「御花」の1泊2食付宿泊券、「ホテルグランドパレス」の食事券など多数用意しております。

ふるさとの物産展
「がね漬け」や「貝柱の粕漬け」など懐かしくて美味しい郷土土産の売店を設けます。

皆さんの参加で楽しい同窓会にしましょう

【賛助金ご協力状況報告】

(平成 25 年 1 月 1 日～平成 25 年 12 月 31 日)

卒回	氏名
高 4	梶 島 啓 介
高 5	野 口 幹 彦
高 5	宮 川 政 實
高 5	原 夕 力 子
高 5	武 田 八 重 子
高 5	高 橋 絹 子
高 5	岸 洋 子
高 5	藤 吉 享
高 6	井 手 真 紀
高 6	井 手 由 紀
高 6	中 村 充 嗣
高 6	池 田 勝 修
高 6	石 橋 寛 幸
高 6	下 川 洋 子
高 6	本 間 清 旨
高 6	森 江 嵩 子
高 7	永 江 桂 子
高 8	田 代 清 美
高 8	中 村 京 子
高 8	津 留 寛 子
高 8	池 上 藤 則 子
高 8	川 崎 悦 子
高 8	市 川 玲 子
高 8	中 川 辰 之 助
高 8	龍 敏 之
高 8	坂 口 加 津 代
高 8	後 藤 享
高 8	嶋 本 幸 子
高 8	堤 千 代 子
高 8	与 田 芳 樹 生
高 8	大 村 泰 義 春
高 8	甲 斐 田 康 子
高 8	古 賀 順 子
高 8	川 原 通 司
高 9	岩 丸 純 芳
高 9	木 村 博 子
高 10	江 口 武 子
高 10	井 上 紀 子
高 11	城 島 孝 雄
高 11	吉 川 照 子
高 11	合 田 道 子
高 11	鶴 精 三 子
高 11	星 野 公 代 子
高 11	秋 永 栄 巳 子
高 11	與 田 広 満 子
高 12	原 尻 場 敦 子
高 12	馬 中 浩 子
高 12	田 中 雅 治
高 13	西 原 万 紗 子
高 13	原 田 中 利 道
高 13	石 橋 正 道
高 14	今 泉 京 子
高 14	鷹 尾 富 士 雄
高 15	後 藤 民 子
高 16	黒 田 夕 工 子
高 16	高 棟 正 民
高 17	中 島 功

卒回	氏名
高 2	大 沢 律 子
高 3	木 村 朱 水 子
高 3	高 木 邦 介
高 3	宮 崎 八 代 子
高 3	西 山 彰
高 3	酒 井 清 行
高 4	松 藤 清 春 子
高 5	松 尾 久 子
高 5	家 入 智 恵 子
高 6	匿名 (柳川)
高 7	中 澤 貞 夫 人
高 7	大 藪 成 孝 人
高 8	池 田 人 人
高 8	村 岡 ハルノ
高 9	福 山 幹 子
高 10	石 橋 邦 博
高 10	永 倉 素 子
高 11	西 田 孝 行
高 11	龍 勝
高 11	永 尾 弘 行
高 12	横 山 正 和
高 12	加 藤 紘 平
高 12	尾 田 常 昭 子
高 12	小 畑 妙 子
高 13	原 伸
高 14	田 中 静 子
高 14	松 岡 健 次 郎
高 15	一 木 克 子
高 16	水 澤 昭 子
高 18	井 上 頼 子
高 24	石 川 八 重 子
高 28	真 中 尚 子
高 34	田 真 鍋 和 裕
協賛 1 口	
中 49	松 尾 淳
中 50	三 山 心 栄
中 50	田 辺 一 彦
中 54	吉 弘 尚 正
中 56	高 田 信 義
女 33	木 下 千 遠
女 39	西 山 五 百 枝
女 40	山 田 千 子
女 42	富 重 信 子
女 42	遠 藤 喜 代 子
女 42	山 口 卜 子
女 45	板 井 敏 子
高 1	熊 本 亘
高 1	高 石 満 之
高 2	池 田 国 彦
高 2	諸 藤 繁 樹 子
高 2	田 中 豊 慶 孝 子
高 2	石 橋 安 朝 子
高 2	德 北 原 大 董
高 3	田 島 順 次
高 3	臼 井 ヒ 口 工
高 3	高 山 久 吾
高 3	高 山 久 吾
高 4	山 本 瞳 治
高 4	高 須 信 治

卒回	氏名
中 56	成 清 良 孝
中 56	松 本 学
女 41	渋 谷 敏 子
高 2	水 上 富 美 子
高 2	広 松 敏 克
高 2	石 崎 知 見
高 4	荒 井 健 之 輔
高 5	江 口 政 司
高 5	中 村 義 行
高 5	中 村 裕 彦
高 5	中 村 千 常 己
高 6	坂 井 博 生 人
高 6	古 賀 勇 生 子
高 8	豊 島 黎 子
高 8	岩 井 治 子
高 8	遠 藤 武 雄
高 8	川 口 融 佑
高 8	樋 口 誠 佑
高 8	内 田 由 美 子
高 8	堺 八 郎
高 10	松 藤 俊 正
高 10	大 島 喜 代 子
高 10	川 口 圭 之 守
高 11	樋 口 守
高 11	相 浦 美 香
高 11	岡 辰 彦
高 12	甲 木 宏 明 美
高 12	松 藤 勝 美
高 12	小 野 ア ケ ミ
高 14	高 木 節 子
高 14	高 松 尾 正 幸
高 14	浜 尾 淑 江 道
高 17	三 池 孝 展
高 18	十 時 理 展
高 20	岡 賢 二
高 21	西 原 正 道
高 24	山 口 直 美
高 27	江 崎 友 大 介
高 27	高 橋 圭 介
高 31	永 田 日 出 樹
高 31	平 田 洋 治
高 31	荒 木 亮 治
協賛 2 口	
中 50	広 松 親 弘
中 56	松 本 一 郎
高 7	長 岡 毅 二
高 7	梅 崎 省 二
高 7	梅 崎 肇
高 8	石 貫 タ ツ 子
高 8	本 木 寅 三 郎
高 8	樋 口 綾 子
高 8	永 倉 正 彦
高 10	大 村 平 人
高 11	石 橋 秀 男
高 14	甲 斐 昌 彦
高 15	小 河 良 充
高 18	緒 方 敬 四 郎
協賛 1.5 口	
中 45	北 島 年 夫
女 42	中 富 尚 子

卒回	氏名
協賛 25 口	
高 2	江 崎 正 直
高 4	V H
協賛 15 口	
高 18	益 田 豊
協賛 10 口	
高 4	渡 辺 善 亮
高 10	渡 慶 次 侑
協賛 8 口	
高 21	石 川 俊
協賛 5 口	
中 46	前 原 弘 弘
中 48	宮 本 弘 道
中 55	武 藤 黎 一 徳
高 1	牧 野 英 美 子
高 1	牧 野 英 美 子
高 2	山 田 銀 一 郎
高 2	小 野 善 睦
高 2	吉 川 良 平
高 4	新 谷 弘 実 行
高 5	下 河 秀 幸 介
高 5	原 田 和 祥
高 5	安 藤 栄 洋
高 5	岸 部 仁 孝
高 6	戸 上 軍 治 思
高 6	島 添 静 子
高 6	井 手 時 子
高 6	木 村 峯 子 佑
高 7	中 村 獎 さ く ら
高 7	福 山 部 一 郎
高 8	津 留 野 善 行
高 9	入 津 留 野 善 行
高 10	平 野 善 秀 生
高 10	内 山 正 孝
高 12	作 田 正 洋
高 13	池 末 光 好
高 16	松 岡 光 正 司
高 16	梶 鳥 正 美
高 16	三 小 田 雅 勝
高 17	荒 木 英 二
高 18	満 生 博 彰
高 18	福 山 博 昇 治
高 19	野 口 寛 治 子
高 20	東 島 豊 子 則 実
高 20	花 白 谷 政 英 和 平
高 22	稲 吉 英 和 平
高 24	酒 見 崎 孝 美
高 26	江 小 野 弘 美
高 30	江 小 野 弘 美
高 32	濱 武 久 司
協賛 3 口	
高 7	米 永 勝 至
高 7	田 中 敬 之 助
高 7	龍 弘 道
高 8	與 田 武 久
高 17	濱 田 昌 進
協賛 2.5 口	
中 54	原 朗

卒回	氏名
高17	藤木 清勝
高17	下吹越 智佳子
高17	龍 敏彦
高17	宇木 博巳
高18	中村 易世
高18	井口 文章
高20	諸藤 由美子

卒回	氏名
高20	近藤 敬介
高20	石橋 康治
高20	田淵 正子
高20	海東 信子
高20	塩田 佳世
高20	東 寛治
高20	宮 島 正信

卒回	氏名
高20	古賀 輝博
高20	井口 ちづ子
高21	柿野 貴美子
高21	千代島 道生
高24	田中 知子
高30	松延 三津子
高40	武末 優子

卒回	氏名
	大曲 由紀子
協賛 0.5口	
高11	久賀 朝文
高23	下田 真知子
(1口 2,000円)	

伝習館東京同窓会 賛助金通信欄コメント

高5 下河秀行

母校伝習館は今年創立190年を迎えるそうです。それだけ歴史と伝統があるわけですから、我々は誇りを持つと共に、母校の益々の発展と躍心を祈ります。

高6 戸上軍治

13号会報誌ありがとうございます。毎回楽しみに拝読しております。小野委員長をはじめ編集に携わっている方々のご努力に深く感謝申し上げます。

女 42 富重信子

大江の幸若舞のお話なつかしく若い日の事を思い出しました。藤吉小学校の友人田島?ミネ子さん(瀬高女学校)と若い時に会いました。その時そのミネ子さんが幸若舞の愛好者で戦後の復活に専念され始めて幸若舞のお話を聞きました。どうしていられるか懐かしいです。三橋村かま船津の人でした。会報有難うございます。

高6 匿名

先輩(高2)より会報御送付頂きました。賛助金については、東京で活躍している同期生との釣り合いを考慮させて頂きます。僅少で申し訳ありません。

高7 福山さくら

13号誌の松永副会長の記事に心を打たれ、今までの自分の会に対する無関心さをいたく反省いたしました。スポーツ黄金時代女子陸上競技部優勝時のメンバー最年少の私も今年75歳。東京地区在住の岩丸(高橋)城島(古賀)先輩とは現在も時々連絡を取り、お会いしています。次回総会には誘いあつて3人で出席できたらと思っています。

高2 広松敏克

会報第13号をお送り頂き有難うございました。早速楽しくなつかしく拝読いたしました。東京同窓会の益々のご発展を祈念いたします。

中49 松尾淳

高齢疾病のため、近くホームに入りましてこれを最後に脱会します。

高18 福山博彰

60年以上に亘る幅広い年代層の卒業生の皆様から寄せられたいろいろな分野についての文を毎号楽しく読んでおります。各学年からもっと寄稿があるとより楽しめると思っています。

高11 相浦美香

相浦竹年(高10)は、2011/5に亡くなりましたのでお知らせします。

高18 十時理展

平成26年総会の年、2年に一度のリトルヤナガワフェスティバル楽しみです。

中48 宮本弘道

当年、89歳になりました。日常生活に支障はありません。日本国も少し流れが変わり始めたのでせうか。若い方々の健闘を祈つてやみません。

高10 大村平人

懐かしく故郷を想いながら読ませてもらっています。

高5 中村義行

伝習館東京同窓会の益々のご発展と会員各位のご活躍とご健勝をお祈り申し上げます。

高16 黒田タエ子

会報が届かなかつたので、水澤さんがわざわざ車で届けて下さいました。しばし故郷の話で初対面なのにすっかりうちとけてしまいました。本当に有難うございました。よければ次回から郵送していただければと思います。

高6 森 清旨

「三稜会」「高6回卒業同窓会」は、幹事の方々のおかげで、きちんと開催されており、全同窓会とはまた違った家族的集まりですので、うちとけた集まりです。

高19 野口昇

いつもいつも素晴らしいより感謝申し上げます。

高8 樋口綾子

役員の方のお世話になっております。よろしくお願いたします。

高7 梅崎肇

毎号楽しく読ませてもらっています。運動部(水泳部、女子陸上部、バレー部など)の大活躍の時期を懐かしく思い出しました。

高3 酒井清行

第2次安部内閣のアベノミクスに期待するが、国の借金が千兆円を超えたらしい。GDPの2倍だ。大変大変。

高7 龍弘道

富士山。登るも見ると良いですね。曇天が多くなかなか写真になりませんが。昔々山口、福山、小倉に在住の頃はあさかせなどブルートレインでの状況が楽しみで、車窓に富士山が見えると幸運が舞い込むと喜んだものでした。

高10 渡慶次 侑

伝習館東京同窓会会報を発行ごに送付いただきまして有難うございます。会報第13号で、新刊紹介されました江崎正直会長の著書「教育は人づくり」企業人生40年から見えた教育界への要望を会長さんへお願いをしてご送付いただきました。3回も読み感動と今後の我が国の教育についての提言を垣間見る思いでした。有難うございました。

高21 千代島道生

毎回広報誌楽しみにしています。送金遅れてすみませんでした。この半年間、柳川の情報とりわけ(北原白秋)詳しく入っています。

平成 24 年 4 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日

単位：円

科目	金額	科目	金額
収入の部		支出の部	
普通賛助金（郵便局）	1,529,000	会報制作費一式（含発送費用）	968,193
普通賛助金（銀行振込）	15,000	資料、メール便発送費	14,170
普通預金利息	7	伝習館生徒会への会報発送費	6,458
		会議（学年幹事会）雑費	20,910
		コピー代	37,488
		修学旅行交流会参加大学生交通費	18,000
		修学旅行交流会参加者懇親会補助	30,000
		伝習館総会広告費	40,000
		ホームページNTTコミュニケーション	32,160
		振込手数料	420
		印字サービス手数料	2,800
		郵便振込手数料	33,620
		東京同窓会総会補填	224,241
当期収入	1,544,007	当期支出	1,428,460
前期繰越金	2,681,635	次期繰越金	2,797,182
計	4,225,642	計	4,225,642

次期繰越金内訳

郵便貯金	87,640
普通預金	20,337
定期預金	1,602,823
預り現金	1,086,382
	2,797,182

学年幹事会

：前号からの続き

高21 白谷政則

どうして年会費にしないのか？賛助金ではお金が集まらないではないか、名称を変えたほうがいいと言っている意見がありますので、今回は『会費と賛助金』について報告します。お金の事柄なのでちょっと堅苦しくなりますが、また、会則を併記したり東京同窓会会報（以下会報）の記事を参考に等、読む方も煩わしいと思います。ご容赦ねがいます。

三 会費と賛助金

伝習館同窓会会則

（平成22年発行同窓会会員名簿より抜粋）

第2章 会員と会費

第5条 本会は下記の者を以て会員とする。

通常会員 イ ロ ハ ニ：

第6条 生徒は在学中に会費として月300円並びに入学時3,000円を前納するものとする。

第7条 既納の会費は返附しない。

金額は年代によって変わっています。

昭44 月額50円（伝習館75周年記念誌）、
昭56 月額200円（名簿）、
平13 月額300円 入学時3,000円（名簿）

柳川の同窓会本部？の会費についての記載はこれだけです。同窓生の皆さんは伝習館在学中に同窓会費は前納しているの、柳川の大同窓会には当日の会費を払えば誰でも出席できます。

伝習館東京同窓会会則

平成14年制定会報創刊号より抜粋

（目的）

二 本会は会員相互の親睦を図ると共に母校の発展に資することを目的とします。

（事業）

四 本会はその目的を達するため以下の事業を行います。

- 1 総会の開催
- 2 同窓会誌の発行
- 3 母校事業の後援等
- 4 その他本会の目的達成に適切な事業

（会計）

六 本会の会計は会員の会費、寄付金品等を以って運営し、毎年1回、幹事会においてその収支を監査します。

東京同窓会でも会費は簡単に記されています。では何故このような会則になったのか？いささつを報告する前に東京同窓会の歴史、歩みを振り返ってみます。

設立当初（会報創刊号高一永江様寄稿）

東京同窓会（東京独自の行動を推進したいとの思いで敢えて同窓会東京支部ではなく東京同窓会と命名）は昭和27年第一回総会を開催、その後昭和43年まで毎年

開催。年会費は徴収しない。初年度は維持会員（毎年千円納入）と終身会員（十年分一括納入）計100名、55万円の基金でスタート。しかし昭和四十三年時点で十万円赤字になりました。

再開（会報2、12号高五松永様寄稿）

昭和48年東京同窓会を再開、以降隔年毎に総会を開催（一度だけ二年の空白）。出席者は100～150名、会費は総会開催時に徴収、年会費などの規則はなく総会の度に赤字にならないか心配であったと30年間以上事務局の松永様まかせの状態でした。

同窓会の活性化

(1) 会費について

平成10年江崎会長（当初副会長）が就任、『東京同窓会を活性化しよう』と呼びかけられ学年幹事会が発足。その後、会則の制定、総会の充実、会報の発行、修学旅行生との交流会等東京同窓会会則の事業を進めています。会則制定にあたりまず会費の取り扱いについて活発な意見がありました。会費、年会費制にする

- ・同窓会を活性化しようという時に会費制にこだわると逆効果になる
- ・年会費制だと強制的と思われる
- ・年会費を払ってないと総会に出席できないという事にならないか？
- ・同窓会の目的は親睦だから参加できる時に会費を払うとした方がいい
- ・高校生時代に会費は納入しているの

二重払いにならないか？

・同窓会なのだから会費制云々より自由にご参加くださいと門戸を開けておくべきだ
等々です。

同窓会という集まりの性格上、会費について明文化するのは難しいことです。

当時の学年幹事会では楽しい総会（一度出席したら次が待ち遠しいような）にしようという思いで一致し、会則という会費＝総会費という認識でした。会報13号松永様寄稿文にある江崎会長からの賛助金協賛のお願いに同窓会の活性化をはかるには、組織的な運営と、財政的裏付けが必要であります。中略 財政的裏付けをするには、会費徴収が最も近道かと考えられますが、他校の実情をつぶさに調査してみますと、いずれも納入率が低く、費用効果の点で問題があるやに聞いています。私どもとしましても、会費制採用には慎重にならざるを得ません。当時の話し合いの様子、結果を端的に表しています。

(2) 賛助金について

次に東京同窓会の運営資金について話し合いました。二年に一度の総会では会費で賄うとしても、会報の発行や母校事業の後援（主に修学旅行生との交流）は毎年の事なので年会費が適切かと考えられますが、会費の項でもあったように〇〇会費では強い印象を与え同窓会そのものにそっぽを向かれる恐れがあります。支部会費という意見もありましたが、設立時、先達の折角の熱い思いが薄れてしまっています。同窓会本部でも認知されている

東京同窓会の名を引き継ぐことに皆さん賛成です。支部会費の名称も没です。いろいろ協議しましたが、会報を発行すれば同窓会への関心も高まり多くの方に賛同していただけることを期待して賛助金を募ることにいたしました。会報13号賛助金のお願いに会員皆様の自発的醸成に期待して賛助金をお願いするものであります。皆様のご協力を仰ぐ所です。

現在に至る

賛助金では趣旨に賛同した人だけ払い運営資金としては足りなくなるのでは、或いは払う人払わない人不公平だとの声もあります。会報12号高8樋口様の寄稿文にもありますように、賛助金とは東京同窓会の運営資金です。平成15年会報創刊以降だいたい毎年300名、150万円のご協力をいただいておりますが、もう一度会報12号、13号に目を通していたら、賛助金へのご理解とご協力をお願いいたします。

この会報は東京同窓会の皆様の他にも母校伝習館の卒業式には新卒者や地元の方々へも配付されます。東京同窓会には3,000名近い同窓生がいるのに自主的に協力する人は一割しかないのかと思われたいようです。

修学旅行生との交流会が現役高校生や母校で好評です。大学生や若い社会人が

三十名以上参加してくれませんが、夕方六時半集合九時過ぎ解散では食事抜きで参加している若い人がかわいそうです。せめて大学生には夕食くらいご馳走しよう。こんな気持ちになっていただけたら有難いのですが。:

賛助金のお振込方法

- ① 同封の郵便振替用紙による
- ② 銀行振込による

銀行名 三菱東京UFJ銀行 銀行コード(0005) 支店名 駒込支店 店コード(061)
普通預金
口座番号 1073673
口座名 伝習館東京同窓会

いづれのお振込の場合にも必ず回生又は卒業年度をお書き下さい。

母校だより

平成25年3月進路実績

()内の数字は合格者人数

国公立大学合格者 130名

京都大 (3)	大阪大 (2)	神戸大 (1)	九州大 (15)
筑波大 (1)	奈良女子大 (1)	兵庫教育大 (1)	岡山大 (1)
広島大 (5)	山口大 (2)	九州工業大 (2)	福岡教育大 (9)
佐賀大 (27)	長崎大 (14)	熊本大 (11)	鹿児島大 (4)
首都大東京 (1)	名古屋市立大 (1)	大阪市立大 (1)	北九州市立大 (14)
福岡女子大 (2)	熊本県立大 (2)		など

私立大学合格者 534名

早稲田大 (3)	慶応大 (1)	上智大 (2)	明治大 (5)
青山学院大 (5)	中央大 (11)	法政大 (6)	東京理科大 (8)
同志社大 (12)	立命館大 (35)	関西大 (8)	関西学院大 (3)
西南学院大 (84)	福岡大 (134)		など

公務員合格者 6名

国家一般職 (1)	福岡市職員 (2)	柳川市役所 (1)	一般曹候補生 (1)
陸上自衛隊看護学生 (2)			

先輩・後輩より

バレーボール部裏話

高4 倉本博子(旧姓金子)

八十路を迎えて、今日まで健康無事でいられることに感謝しつつ、まだ何かやり残しがある筈。いや神は「まだ君は世の中の為にやらなければならないことがある!!」と時間を与えて下さっている? なんて八十路に夢ふくります昨今で新年を迎えました。

毎年発行されます伝習館東京同窓会々報を楽しみに拝読しておりましたが、期せずして一昨年(二〇一二年)・昨年(二〇一三年)の12号・13号で、後輩諸氏の皆さん方が「母校伝習館のスポーツ黄金時代」や「伝習館バレーボール部と恩師(中島時夫先生)」の記事に記念誌を紐解いたり、当時のことを、それぞれの記憶と立場から記して下さいました。

特に、高27の川口聡氏は郷里、柳川市バレーボール協会会長として活躍される中、特別寄稿頂いたことです。中島先生が昭和24年に三池工業高校から伝習館に赴任された経緯や、翌年レギュラーメンバーで善戦していた男・女のチームポジションを、フルネームで明記して下さい

でもアットホームな雰囲気の良い高校のバレーボール生活でした。

卒業後、私も大学でバレーで活躍しましたが、中島先生に恩返しするかのよう
に、当時の東京教育大学(オヤジの母校、現在の筑波大学)で伝習館の同期生と後輩が、連続して「主将」で活躍してくれたことは、東京に住む同じバレー部員として、とても誇りに思えた時代でした。
昭和32年度・木下清爾、33年度・龍昌生、35年度・金子厚生、といずれも主将が続きました。

オヤジは念願とされた強い伝習館バレー部にせんもの、情熱を燃やされました。その渦中で3年間鍛えられ、半ば目標達成できたことは、80歳を迎える人生の最高の勲章であったことは間違いありません。メンバーの半数が既に故人となり、一人歩きが出来ない老人病に悩んでいる人もいることを思えば、未だ元気に国内外を駆け回っている自分に何ができるかと、オヤジ在りし日の学生時代を思い出すままに綴ってみました。母校バレー部への絆は終生尽きることなく続くこととでしよう。後輩の方々の奮励努力で伝習館バレー部が、永久に発展し続けることを祈念しながらペンを置きます。

伝習館創立190周年 & 柳川観光大使

高5 下河秀行

二十一世紀、更に躍進する伝習館を

一六六〇年頃、安東省菴の私塾創建。
立花藩、伝習館としてスタートして今年一九〇周年を迎えると言うことで、大変喜ばしく思う。

一八二四年設立と言えば、シーボルトが長崎に鳴滝塾を開いた頃と重なる。
その時代に、藩校伝習館が開学したと言うことで、その「歴史と伝統の重み」をひしひしと感じずにはいられない。

校訓の明朗、誠実、剛健は、伝習館OBの中に、永遠と生き続けている。
伝習館「掲示」は「学問とは人として如何に生きるかの修養である」と説いた中国の儒学者朱子の教えからなっている。

この精神は、今も伝習館教育に受け継がれ、いわば生きた遺産になっている。
私達は、昭和二十六年に入学し、二九年の新制高校第五回卒業生だが、その頃の日本経済は戦後の疲弊の中からようやく

立ち上がりつつあった。朝鮮動乱の需要が始まり、九月には米国で「対日講話条約」と「日米安全条約」が締結された時代であった。

当時は、映画は全盛時代で、柳川には映画館が3館もあり、名画に酔った。
街頭にはモノクロTVがやつと出現し、TVの前はプロ野球やプロレスが人気を集めて人だかりで人を集め、マスメディアも多様化してきていた。早いものであれから既に五〇年の歳月が流れた。
最後に、藩校伝習館よ 永遠なれ!

誰より柳川をこよなく愛している

さて、不肖私は、はからずも昨年十月「柳川観光大使」に委嘱された。

どのようなことで選ばれたのか、よく分からないが恐らく郷土を愛する気持ちが一歩あったのと首都東京で積極的に地域活動を行っているからだと思う。

北原白秋の故郷として、全国的にも名を知られる「水郷柳川」は、私のうぶすな(産土)でもある。

この世に生をうけて七八年の歳月は流れても「忘れえぬ柳川への郷愁」を私は人一倍持っていることを誇りにしている。

立花藩の城下町、水の郷、藩校伝習館、詩聖北原白秋、川下り、うなぎのせいり蒸し、さげもんとくれば、直感的に柳川を思い浮かべられる方が全国的に多いのではないだろうか。これからの柳川は、観光事業抜きにしては成り立たない。恵まれた観光資源と共に「おもてなし」の

心を全市民が持つことが大切だと思う。

私は、「柳川観光大使」の第一弾として、東京で、二泊三日の「水郷柳川の白秋祭水上パレード・学問の神様太宰府・今年のNHK大河ドラマ【黒田官兵衛】の福岡観光ツアー」を企画して、昨年十一月一日から三日までの三日間福岡を訪れた。

初日には、柳川市長からレセプションをしていただき、大変感動した。

今回のツアー仲間には、水郷柳川・太宰府・福岡を初めて訪れた人もあって、非常に喜んでいただいた。

それは、Discover Yana gawaの旅でもあった。

今後もいろいろな企画をしていきたい。



委嘱式で金子柳川市長と

どんど (ドンドン) 焼き

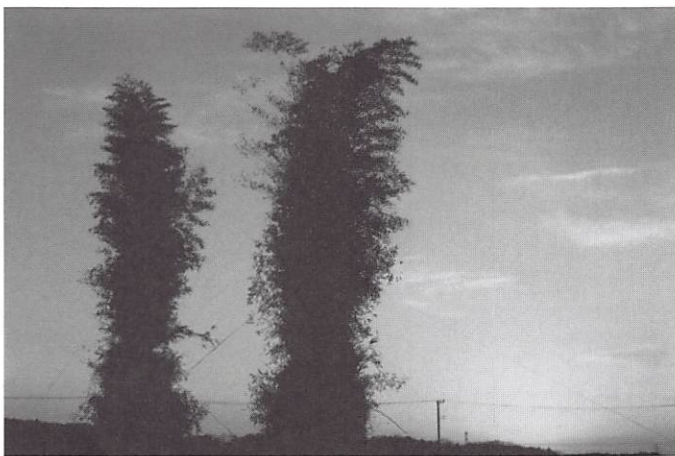
高11 龍 勝

私が住んでいる千葉県君津市は工場群が立ち並ぶ東京湾沿岸部から平野部を抜けて房総丘陵の尾根まで続いており、面積では千葉県でも1、2の広さを誇っています。それだけに開発が進んだ沿岸部



写真①

を除いた里山や山間部の集落では昔ながらの行事や風習が数多く残っていて、ここに記述する『どんど焼き(ドンドン焼きと呼ぶ地域もあるようです)』もその中の一つです。
市の資料や広報及び私が調べた結果だけでも10数箇所の集落で行われているようです。大きさや本数はどこも似たり寄ったりで、高さで10m前後、底辺部の直径2〜3mの物を2本立てる集落が多いようです。材料は青竹・雑木・稲藁がほとんどです。また、いわれや由来も同じようなもので、小正月の行事として正月飾りや門松等と共に燃やし五穀豊穰・無病息災と共に新しい年の繁栄を願い2月3日の節分の日(勤め人が多くなった現在はこの日の前後の土曜日)に行う集落が



写真②

多くなっています(の夕方に行われま
す。当日は集落の世話役等により甘酒や豚汁等の温かいものも振舞われ、防寒着に身を包んだ大勢の人達がその年の年男・年女によって火入れが行われるのを今や遅しと待ち構えます。

写真①が1月中

旬に集落の男性中心の住人によって立ったどんど焼きで、写真②が冬晴れの夕焼けをバックにして立つどんど焼きです。そして写真③がどんど焼き当日に集落内外の大勢の観衆の見守る中で赤々と燃え上がる様子です。

昔(戦前?)から行なってる集落がほとんどですが、中には戸数が減ったり子供が減った等の理由で取り止めた集落があったり、一方で集落内のコミュニケーション強化や青年団の団結を計るためなどの理由で最近になってやり始めた集落もあるそうです。

ところで、同窓会誌なのに何故君津市のどんど焼きの話題?といぶかしげに読まれてる同窓生の顔色がわかるようですが、勿論これには訳がありまして、私が生まれ育った旧昭代村でも昭和30年代初頭まではほとんどの集落(その頃は部落



写真③

関係にあると記されている。この狗奴国とは、熊本県を核とした南部九州勢力であったことが通説となっている。二つが近接していたからこそ、「素」より不和で、争いが絶えなかったのではないか。さらには、女王国の「東」方には、海千余里を隔て、別の倭人国もあると記されているのである(「女王国」については、邪馬台国そのものを指している場合と、女王統属国をも含む領域「女王勢力圏を指している場合とがある」とみられている)。これは、まさに、四国乃至本州にある国々に触れたものであろう。畿内なんかには邪馬台国があつたはずがない。邪馬台国も邪馬台国に組する国々も、全て北部九州に一団としてあつたとみるのが相当ではなからうか。

《古事記・日本書紀にみる》

ところで、邪馬台国の所在地等につき、我が日本の文献に求めることはできないのか。日本最古の国史は、八世紀初めに完成した「古事記」と「日本書紀」といわれている。しかるに、これより五百年も昔のこととはいえ、残念ながら、邪馬台国や卑弥呼(鬼道に通じた「夫婿」なき女帝)についての記述は、全く見当たらないのである。

記紀は、時の権力者四十代天武天皇の命によつて編纂されており、国史とはいながらも、畿内天皇家の正統性、大和朝廷の威信等を説くために創り上げられたもの(正史たる書紀は、「中国なみに古い時代の建国「大和朝廷」、「大和朝廷

「天皇家による支配」を正当化し、国内外に知らしめるためのもので、特に政治的意図が働いている)というのが、大方の見方であろう。初代神武天皇から九代開化天皇までは、実在しない人物とみられており、十四代仲哀天皇までの記述は、歴史的事実としては信用できないともいわれている。つまり、肝心の邪馬台国時代が、ベールに包まれてしまつているのである。天武天皇は、神代の昔から連綿として続いている一系(万世一系)の王朝の裔である旨を主張したいわけだから、邪馬台国はもちろん、鍵を握るその所在地についても、蓋をせざるをえなかつたのだらう。そうはいつても、伝承があり、倭人伝等の中国の文献も存在しているなかで、女王王朝の全てを消し尽くすことができたのか。何らかのかたちで、真実が織り込まれているのではないか。

記紀の作為性を念頭におくと、最も注目すべきは、神代、すなわち神話時代ではなからうか。まずは天孫降臨神話である。高天原を支配していた神々の女王天照大神が、九州の日向の高千穂の「久士布流多氣」(くじふるたけ)に、自らの孫を降臨させたという。その血を継ぎ、神代から人代に向けて登場するのが神武天皇で、九州から畿内に入り、土着勢力を倒して都を造つたとされている。これが建国神話で、「神武東征」といわれているものである。記紀を手掛けた天皇が、先祖「九州にこだわっているのだから、大和朝廷の起源が九州であつたことは、まず間違いないからう。そして、それ

は、邪馬台国勢力による畿内征服であつた可能性もありうるのである。邪馬台国時代は、この神話時代にあたり、大和朝廷はまだ成立していなかつたとして、高天原が邪馬台国の反映、天照大神が卑弥呼の反映とみる識者も多い。倭人伝に記されている倭国の状況と、記紀が伝える神話時代の状況とが、酷似しているからである。

記紀に素直に従うとすれば、注目すべきは、十四代仲哀天皇時代で、仲哀天皇の妃として神功皇后を配し、摂政というかたちで活躍させているくだりであろう。この模様は、書紀に神功記なるものを特設して具体化、ここで倭人伝の一部を引用(倭の女王等と魏との国交を注記)し、倭人伝との整合を図ろうとしている。つまり、倭人伝に記されている頃には、既に大和朝廷が成立していたとして、大和朝廷そのものを邪馬台国とみたくて、大和朝廷の神功皇后に女王卑弥呼を反映させようと腐心しているようにも思われる(引用形をとるなどして、臨機応変に弁明できるよう工夫されている)。苦肉の策ともいえようが、この神功記の見所は、神功皇后が九州の宇美で生誕した息子を連れて大和に帰還、朝廷にいた異母兄弟を倒して皇位に就かせるシーンではなからうか。いわば、神武東征を彷彿させるような記述がなされている。この十五代応神天皇は、「大王」という別格の称号で記されており、その墓陵は日本で最大級のものであるところから、応神天皇からが実在の人物ではないかとみるむきもある。いずれにしても、これも

また、国家を統一する勢力が、九州から畿内に移転したという物語なのである。邪馬台国九州説の優位性、そして、その東遷の相当性さえも窺えるような響きが伝わってくる。

卑弥呼についてさらに敷衍すると、卑弥呼の反映は、天照大神でも神功皇后でもなく、大和朝廷皇女の倭姫または倭迹迹日百襲姫(書紀によれば「箸墓」の主とされている)とみる識者もいる。さらには、九州の筑後の女酋のいづれかで、土蜘蛛の田油津媛乃至その先代ではないかとアプローチする識者もいる。この田油津媛とは、書紀において、神功皇后に討たれる山門郡の女酋なのである。神功皇后については、その摂政期間たるや、なんと六十九年にも亘っていることなどから、何人かの女傑像が重なり合った虚像とみられるが、そのような大物に抹殺されなければならぬほどの首長として位置付けられているのである。田油津とは、「誑かす」に所以するものである。田油津から、鬼道に長けていたものとみられる。したがって、卑弥呼や卑弥呼の末裔説、ひいては、卑弥呼(壺(台)与(倭人伝によれば、卑弥呼の同族で、卑弥呼の次の女王)→田油津媛と推移したのではないかというふうな見方も生じることとなる。

《我等が邪馬台国》

以上、邪馬台国、とりわけその所在地に関し、素人なりに思ひの丈を呟いてみたが、さらに補足すると、倭人伝には原

史料が存在するのである。「魏略」と「広志」で、広志のほうが倭人伝に近いといわれている。この広志逸文によって邪馬台国の位置を探るに、伊都国の方に「又南至邪馬台国」と、伊都国からの方位が記されているだけである。つまり、「投馬国」、「水行十日陸行一月：可七万余戸」等の記述は、倭人伝の段階で追加されたともみられるのである。これは、九州説をとる者にとっては有利な材料であり、畿内説をとる者には、きわめて不利な材料となろう（伊都国の南方に所在していた邪馬台国が、段階的に移転したのではないか：そのフォローが不完全なまま、倭人伝が編纂されたのではないかと憶測する識者もいる）。

また、倭人伝はもちろんのこと、国史である記紀にも、日本特有の「銅鐸」に関する記述がみられないところに着眼した見方もある。これによれば、邪馬台国時代Ⅱ弥生時代についてみるに、北部九州を中心とする地域は銅剣・銅矛・鉄剣・鉄矛文化圏、畿内を中心とする地域は銅鐸文化圏であったとし、倭人伝の舞台たりうるのは、政治的、経済的にも先進的であった北部九州というのである（北部九州においては、畿内よりも早くから、銅鐸をも含む青銅器はもとより、倭人伝に記されている「鉄鍬」等の鉄器も生産されていたとみられている）。しかるに、畿内の銅鐸は、ある時期を境として、破壊され、あるいは埋蔵され、地上から姿を消してしまったという。銅鐸を神器としていた祭りが、剣、鏡、玉を神器とする祭りに変わったのである。と

すれば、畿内の勢力が、銅鐸を拒否する異民族、すなわち北部九州の勢力に征服されたともみられまいか。

邪馬台国は何処に：我等がふるさと山門郡説は、多くの識者に支持され、長期に亘り、九州説の代表格たるステイタスを維持してきたといえよう。そして、そのシンボルは、何といつても女山（そやま）ではなからうか。女山は、かつては女王山、あるいは、そもそもは徐山（じよやま）だったともいわれている。徐山とは、韓語の「徐邪伐」（ソホルⅡ都）からきているという。この女山一帯が邪馬台国の聖域で、卑弥呼の居城（千人の巫女を侍らせ、神がかりをして神託を下した「宮室樓觀」だったのではないか。山を包囲するかたちで、三キロにわたり神籠石による列石が築造（邪馬台国時代の城柵が拡充継承されてきたものとみられる）されており、この周辺には、縄文時代、弥生時代、古墳時代の遺跡が密集しているといわれている。多くの塚や巨石群があり、卑弥呼の墓とも田油津媛の墓とも呼ばれている。

女山の頂からは、有明海と筑後平野が一望できる。有明海と筑後平野とは、矢部川や筑後川で繋がれている。これらの川を上り、稲作、製鉄等の技術をもった渡来人が住み着いたのである。有明海の東前方（熊本県との県境近く）にある大塚は、邪馬台国と狗奴国との交戦の戦死者を葬った塚と伝えられている（後に北関源平戦の戦死者も合葬されたことから、平家台とも呼ばれている）。筑後平野の奥には、背振山を背に、あの吉野ヶ

里が控えている。矢部川の上流は、書紀にでてくる筑後国造磐井（六世紀に九州王朝を狙って「磐井の乱」を惹起）の本拠地なのである。倭人伝に記されている戸数規模等を斟酌するならば、邪馬台国の領域は、女山山麓、矢部川流域から、広く筑後川流域にまで及んでいたのではなからうか。この間、女王の居城が移転したり、政治的実権が共立国に移った

り、ついには、邪馬台国の後継勢力が畿内に進出、大和朝廷を樹立した可能性も十分ありうるだろう（前述したように、卑弥呼は、戦乱を収めるために共立された盟主Ⅱ鬼道につかえる巫女王であり、邪馬台国においても、卑弥呼自身が政治的実権をもっていたわけではなからう）。

九州説、とりわけ山門郡説については、考古学的裏付けがないとして、近年軽視されがちな傾向にあるが、考古学的裏付けがないのは、畿内説等にしても同様ではなからうか。邪馬台国であることを立証するには、当然のことながら、文献とともに、文献に登場している遺物や遺構を揃える必要があり、これらに焦点をあてた考古学的検証が不可避であろう。山門郡の場合、しかるべき発掘調査が進展しないなかで、二十世紀後半から相次いだ九州縦断高速道路、九州整備新幹線等の建設に際し、歴史を彩る遺物、遺構が続々確認され、新たに注目を浴びている。女山南方の面の上古墳や九折大塚古墳では、三角縁神獣鏡よりも古い時代の四獣鏡、蓋（きぬがさ）の破片等も出土している。「後漢書」にでてくる「面上（土）国王帥弁」（二世紀初め後漢に

生口百六十人を献上）の墓ではないかともみる識者もいたりして、いにしえへのロマンは限りなく広がっているのである。

白秋が去り、時が流れ、時代は変わり、「平成の大合併」に伴い、「山門」という由緒ある行政区画名も消滅してしまったが、我等が産土には、今もなお、山門の歌を彷彿させるような情趣が漂っている。そして、矢部川沿いの筑後広域公園では、「卑弥呼の火祭り」なるものが、定期的、広域的に催されている。「賢者は歴史に学ぶ」といわれている。激動の二十一世紀：いにしえにも思いを馳せながら、ふるさとの未来を語り合う情熱をもち続けたいものである。



私の風の又三郎

高14 高木節子

ドドドドドドと北風が吹いて、彼が教室に登場したわけではありません。高校一年のとき一寸気になる同級生がいました。ところが、卒業のときは風の如く忽然と消えていたのです。私にとっ

ては「風の又三郎」の如き存在でした。後で分かったのは、何処かへ転校していたという単純なことでした。従って彼は伝習館の同窓生ではありませんが、卒業生ではありません。

その又三郎君は、約五十年後、飄然とまた、同期生の前に姿をあらわしました。今や、わが国邦楽界の重鎮となつて……。

勝国さん 本日はおめでとつございます

歌舞伎俳優

坂東 玉三郎



田口照国君です。

別掲、ふるさと瓦版の「広報みやま」の如く、昨年十一月二十三日、みやま市の「まいピア高田」で帰郷公演を開催、絶賛を博し、故郷に錦を飾りました。

彼を伝習館同窓生の皆さんに、広く知って頂き、今後エールを送って頂きたいと紹介します。

杵屋勝国さん、「人間国宝」を目指して頑張つて下さい。

「国さん」と親しく愛称で呼ばせて頂く様になって30年ちかくの月日が経ちました。その間、私の舞台は全てを勝国さんに演奏して頂いております。

勝国さんとの出会いは、昭和五十四年、改装前の新橋演舞場。「京鹿子娘道成寺」でした。勝国さんは芳村伊十七さんの脇三味線で参加して下さいました。翌年の一月、浅草公会堂で、いわゆる浅草歌舞伎が旗揚げされ、私が「鶯娘」を踊りました時に初めて勝国さんに立三味線を弾いて頂きました。前年の「娘道成寺」で気持ちを通じ合い、常々一緒に舞台を勤めたいと考えていましたので、このときは日頃の願いが叶った思いで、とても嬉しかったのをよく覚えています。

勝国さんの三味線の魅力は何と云っても長唄独特の華やかな音色と、しなやかな「ノリ」のよさです。「鶯娘」は三下がり、凄惨な中にも女の哀れを表現し三味線としても素晴らしく、いつも勝国さんの三味線の音と一体になってこの曲を踊り続け、私の大きな出し物の一つとなりました。

勝国さんは出し物の内容や、私の考えなどを良く理解し演奏してくださるので、打ち合わせ無しでも阿吽の呼吸で舞台上に立てる安心感のある存在です。これは長い付き合いの中から生まれる信頼感で、一緒に舞台上に立つ者として、ありがたいことです。

勝国さんのお人柄は、非常にあたたかく、おおらかです。三味線を弾く方には珍しく、神経質な部分は奥に隠され、いつもやさしく周囲を気遣つて下さいます。私の言にくい注文も、上手に消化してお仲間へ伝えて下さる包容力のある方です。

本日、勝国さんが演奏される「吉原雀」は私の大好きな曲で、何と云っても勝国さんの歯切れの良い撥さばきには驚かされ、華やかな廓の情景が醸し出されます。

最後に、日頃の感謝と心からの御祝の気持ちを込めて「勝国さん、本日はおめでとつございます。」

NHKエンタープライズ「芸の真髄」政策委員会が「芸の真髄第二回」として二〇〇八年八月国立劇場「大劇場」で上演した際に出演。その際に歌舞伎俳優の人間国宝・坂東玉三郎さんが彼に祝辞を贈っています。お許しを得て紹介します。

PROFILE プロフィール

杵屋勝国 (本名：牟田口照国)

福岡県みやま市生まれ
6歳のとき、杵屋寿太郎師に入門。
14歳にて七代目家元、杵屋勝三郎師より杵屋勝国の名を許される。
上庄小学校、瀬高中学校、伝習館高等学校を経て東京芸術大学邦楽科を卒業。
歌舞伎のアメリカ、ロンドン公演などに出演のほか、デンマーク政府招待による独奏公演、ハワイ、ヨーロッパでの長唄演奏公演など海外での活動も行っている。
歌舞伎界では、坂東玉三郎丈、故中村勘三郎丈の歌舞伎の立三味線を務め、多くの舞台に出演している。
テレビ、ラジオの出演のほか、演奏会、作曲と幅広く活躍しており、CD、DVDなど出版されている。
昭和44年5月北原白秋の詩「若き日の夢」の作曲で、杵勝作曲コンクールで1位を受賞。
60年2月「博多山笠」の作曲で、九州長唄コンクールで1位を受賞。60年2月歌舞伎座の「二人婉久」にて松竹社長賞受賞。平成21年NHK主催、芸の真髄「吉原雀」で松尾芸能賞を受賞。
現在、一般財団法人杵勝会 理事長。

瀬高中学校同窓会設立60周年記念
長唄
「杵屋勝国」
(牟田口照国/昭和35年3月瀬高中学校卒業)
帰郷公演

とぎ/平成25年
11/23(土)
開場/PM2:30 総会/開演/PM3:00

とぎ
まいピア高田
[多目的ホール]
入場整理券1,000円

本項目
北原白秋 詩 杵屋勝国 作曲
「若き日の夢」
「流れ」
阿部野矢 詩 杵屋勝国 作曲
「柳橋」
「抄曲集(春夏秋冬)」
「二人婉久」

江崎 昌雄
0700-632-3453

瀬高中学校同窓会 みやま市、みやま市教育委員会

帰郷公演パンフ

「白寿の母 柳川の 思い出」

高12 滝口晴夫

私の人生はいろいろの土地とその地に
住む人々との出会いと生活体験で彩られ
てきました。

かの大戦中は父の満州派遣で残された
家族と山形県新庄に疎開、戦後父の引揚
げに伴い東京に戻り、父の転勤で九州に
移り住みました。九州でも転々と居を変
えました。中でも印象が強かったのが
柳川。伝習館での学生生活でした。

社会に出て、海外と係わりのある仕事
を選び、ブラジル、イタリー、ベトナム、
インド、と合計18年に及ぶ駐在生活を
経験しました。

これらの経験から得られたものは知識
や友情そして文化と価値観の共有だと思
います。伝習館12回生。在東京の集まり
「くっぞこ会」を通じて柳川の思い出を
とのお話をいただき、いっそ伝習館在学
のきっかけをつくってくれた母に語って
もらうことにしました。

私は、伝習館にお世話になりました息
子の母でございます、昨年11月に99歳

になり白寿のお祝いもしていただきまし
た。

この度、思いがけなく息子のお友達か
ら柳川の思い出を何かとすることになりま
した。

懐かしい柳川の思い出話となれば、
昭和34年春に亡夫が若松から柳川に転勤
の発令を受けたことから始まります。

夫は石炭を扱う日鉄鉱業に勤務して
おりましたが、昭和27年に東京から九州に
転勤となり飯塚、鹿町（長崎県北松浦
郡）、若松と転々と移り住みました。

上二人の兄たちは既に東京の大学で家
を離れていましたから、末っ子の息子だ
けが一緒で、柳川への転勤となると一年
前に入学したばかりの戸畑高校からの転
校となるため、父親も案じ本人の希望を
かなえろと言ったら残りたいとなり、す
ぐと下宿探しを始めることになりました。
た。

夫は内命を受けて柳川に挨拶に行つた
時、地元の方々から息子の戸畑高校
残留より、柳川には伝習館と云う藩校創
立の立派な高校があると勧められて、息
子も興味を持ち春休みを利用して柳川に
出かけました。

伝習館を見学のつもりで訪ねたら、転
校試験を受けさせられたと文句を言っ
ていましたが、本人は気に入って伝習館を
選ぶことになり家族一同安堵しました。

日鉄の柳川事業所は新規事業なので社
宅も建設中で、私たちは半年ほどいっ
旅館にお世話になりましたが、クリーク
が近いせいかよく大きな蛇が出てきて息

子に退治してもらいました。

柳川は城下町としてその名残をいろ
ろ残していて、りっぱな庭園のある御花
を始め古物屋も多く、掘割やクリークも
張りめぐらせていて、静かな町並みをつ
くっていました。私の故郷の山形県新庄
も城下町でしたから懐かしく思いまし
た。

地元の方々から転勤の歓迎会で名物の
うなぎを供せられました。フツフツと焼
きたての香ばしいうなぎの姿と味が思い
起こされます。

当時はまだ足腰が元気でしたから前任
地からのお友達や親せきの来客を柳川の
あちこちに案内することができました。
北原白秋のからたちの碑や記念碑や水郷
めぐりなどで最後はやはりうなぎでし
た。

始めはハゼの佃煮かと思つたムツゴロ
ウの甘露煮も美味でした。

この歳では昔のことは何でも右から左
に忘れ抜けてしましますが、暮らしたこ
とのある土地は人生のひと時の軌跡であ
りますから、お陰さまで懐かしい柳川を
少し思い起こすことができました。皆さ
ま方の暖かいお申し出に心から感謝申し
上げます。

『青春のパイプライン』

《映画篇 ① 後篇》

高18 福山博彰

前回に引き続き、私の趣味の一つであ
る映画観賞について、最高峰と位置付
けている好きな映画『ウエスト・サイド・
ストーリー』（以下WSS）の後篇を、
インタビュ形式でお送りします。

（仮想の聞き手は滝川クリステルさん）

第1章：映画観賞が趣味、映画手帳の話、
一番好きな映画がWSS

第2章：オープニング映像、アカデミー
賞の話、筋書きについて

第3章：台詞と英語の話、誤訳の歌の話

《第4章》

―音楽には何か特徴はあるのですか？

「はい。バーンスタインはクラシックの
作曲家・指揮者でもあります。この作
品ではバラード、躍動感のある歌、讚美
歌風の歌など、どの曲も覚えやすいメロ
ディを書いています。一番有名な曲、『ト
ウナイト』もメロディの流れ、構成、転
調、コード進行など、磨き上げられた名
曲です。でも、聴くと易しく歌うと難し

い、曲です。『ジェット・ソング』もそう、声楽エチュードみたいに音符が上下に何回も繰り返し展開し、リズムも複雑で、音程の悪い歌手だと歌えません。そもそも論になりますが、オペラの曲・歌には台詞に音符を配したレシタティーボと、歌として独立したアリアという二つの形式があり、このミュージカルの時代はアリア形式のものが殆どで、メロディが覚えやすく口ずさむことができ、格調の高い名曲が数々あります。

『南太平洋』、『サウンド・オブ・ミュージック』など、その中の歌は皆知っている歌ばかりですよ。WSSはアリア形式の最高峰で、正に珠玉の名曲揃いです。これと比較すると最近のミュージカルは流行って有名になったものでも、例えば『シカゴ』や『レ・ミゼラブル』などの中の歌は、観て聴いた人は誰も歌えませんし歌に親しみもありませんよ。優れたメロディがないから口ずさむことができる歌がないんです。聴くだけでいい音楽・歌になってしまっていて、私は全然評価していません。」

—そういうことですか、このミュージカルの音楽的位置づけが分かった様な気がします。それと、この映画を観た人は必ず真似したくなりますね、あのダンス・ステップと合図の口笛！

「そう、そう、やりました。あの脚を上げて踊るシーン、得意ですよ、脚の長い私がやるとサマになりますし。…ん？いや、ジョーク、ジョーク…。」

さて、踊りの話になりますが、それまでのミュージカルはバレエを基本とした

ステップや踊り方だったんですが、ジェローム・ロビンズが指を鳴らしたり、脚を上げたりする斬新で革新的な振り付けをしました。モダン・バレエに近くなっていて、映画の冒頭からシーンでその動きがはつきりと出てきます。

合図の口笛の話しますと…その前に、メロディや音の高さなどを文章で表わすのは極めて難しいですが、一例として誰でも分かる唯一の曲は…これかな、トジャ・ジャ・ジャ・ジャー…！」

—ベートーベンの運命でしょう！
「当たり前！ ジェット団の合図の口笛を同じ様な書き方にすると、トチャ・チャー… ジャー!? ですが、分かりますか？ ドーファーシという不安定な音程です。ファーシ、シーファーとも三全音音程（トリ・トーン、増4度）で音がとりにくく、昔は悪魔の音楽と言われ、危険な音程間隔とされた様です。相応しい和音もなく、減三和音の複雑・不安・暗黒の和音も合わず、ファとシの2音だけを鳴らすしかありません。ロミオならぬトニーが歌う『マリア』の「マ」と「リ」の音程もこのトリ・トーンですから、二人の愛の関係の不安さと暗さを表現しているという分析もあります。」

—なるほど、と言いたいのですが、実際に音を聴かないと、すみません、音楽理論について行けないのですが…。

「あ、失礼しました。実際に音を聴かないとピンとこないですね…だからピントはずれでした（ダジャレ）。残念ながらここにはピアノもギターもないので。とにかく何か暗い不安定さと緊迫した感じ

の音程がこの楽曲に使われている、というところだけ感じて頂ければ結構です。次に『アメリカ』という曲の話。シャークス団はプエルトリコからの移民の若者の集まりですが、団長ベルナルドとそのガール・フレンドのアニタを中心として、男女グループが競いながら歌って踊ります。この曲の歌詞は、故国とアメリカとを比べて、女性陣がアメリカの良さを強調しますが、男性陣が、その恩恵にあずかれないではないかと反論する、一種の掛け合い漫才みたいな内容です。英語の歌詞はデイベイト（討論）として大変面白いです。メロディとリズムも覚えやすく躍動感のある曲です。」

《第5章》

「それでは、有名なバルコニーのシーンの話に行きましょうか。ロミオとジュリエットと言うと誰でもこのシーンを思い出すでしょう。台詞も一番有名ですが、まずWSSでの台詞について。

プエルトリコ移民のマリアの父親は彼女を「マルルーカ」と呼び、彼女も兄もシャークス団の若者達もスペイン語訛りの英語を話します。帰りがけのトニーにマリアが『ホワット・ダズ・トニー・スターンド・フォー？』と呼びかけ、愛称のトニーの本名を聞き、アントンであること

を知り、『テ・アドロー・アントン』（アイ・ラブ・ユー、アントン）と思いを告げます。このスペイン語の愛の言葉はラスト・シーンの台詞として最後にもう一度出てきます。シェイクスピアのセリフの焼き直しがあるかなと思いましたが、

似た様な台詞は一つもありません。」
—ラブ・シーンの愛の言葉は濃厚でも愛情表現の行動は日本的に控え目で、欧米映画特有の熱い抱擁もキスもなく、少し物足りない感じがしましたが…。

「おやおや、意外なご発言ですね。情熱的なのがお好きですか。確かにそうです。私も最初に観た時には期待を裏切られました。これは多分、新人のリチャード・ベイマーごときにと、キスもベッドシーンも既に人気女優だったナタリーのOKが出なかつたのではないかと推測します。あるいは監督の方針だったかも知れません。いずれにせよ、だから文部省も推薦映画とし、先生達も安心して生徒に観せることができたのかと…。二人が愛を確認し合う『トゥナイト』の二重唱、

出だしのチェロの伴奏はウェーバー作曲の『舞踏への勧誘』の如く情緒豊かに始まり、あの「トゥナイイト、トゥナイイト…」メロディで言うところの「ドリー・ミ・レー、」の本歌が始まる前に「オンリー・ユー…」と歌い始め、掛け合いで徐々に愛の高まりを謳い上げていきます。即ち燃え上がった恋を行動ではなく、歌で表現しているのです。但しですねえ、最近渋谷で見たブロードウェイからの舞台では、激しい抱擁とキスをしていました。普通はそうですよ、ハッハッハ、安心したでしょう?!」

—ええ、やっぱりそれが自然かと…。

「因みに、本歌と言うか、本メロディの前に語り（verse）のある歌、意識して聴いたことはないでしょうが意外に多くあります。シャンソンの『枯葉』、『ス

ター・ダスト』、『思い出のサンフランシスコ』、『一晩中踊れたら』、『シエルブルーの雨傘』などもそうです。実はビートルズの曲にも2曲あるんですよ！

さて、話を戻して、決闘に向かう場面に歌われる『クインテット』（舞台では『アンサンブル』という題名）、テンポ良く勢いのある五重唱で、私がこの映画の中で一番好きな曲です。

『トゥナイト』の主旋律が3人のソロで、掛け合いのオブリガートの旋律が対立する2グループの合唱で歌われます。映像も躍動的で、この場面は圧巻です。

尚、この様に2つのメロディが重ねて歌われる歌も『五つの銅貨』、『ドレミの歌』など数多くあります。奇抜なのは知る人ぞ知る『オペラ・ハット』という映画で、ゲリー・クーパーが『ユーモレスク』をチューバ演奏し、ジーン・アーサーが『故郷の人々（スワニー河）』を歌っています。またシャンソンには『パローレ・パローレ』という、歌のフレージの合間にアラン・ドロンの低音の台詞が多く入る歌もあります。女性を口説いている台詞なのですが、フランス語が分からなくても雰囲気を楽しめます。

へえ、そんなんですか、面白そうですね。ドロンの台詞も聴いてみたいわ。

「またまたついでに、2つのメロディが重ねて演奏される曲をご存じですか。有名なところでは、グノー作曲の『アベ・マリア』は、主旋律はグノーですが、伴奏はバッハの平均律ピアノ曲集の第一番が使われています。そうそう、アメリカの行進曲で『国民の象徴』と言う曲、多

分聞いたことがあるはずですが、この曲ではある有名な曲の一部がバックに使われているんですよ。ええ？ 答え？ いや、これはご自身で調べてみた方が。答えを先に知ると面白くないでしょうか？」

《第6章》

「話したい事柄、曲などがまだまだありますが、それでは最後にラスト・シーンに隠された衝撃の秘密です！」

：マリアは愛するトニーを殺されてしまいますが、彼の子を宿した彼女はその後、女手一つで健気に子供を育て、孤児院か学校の先生になって強く生きて行くのであります……」

—あらまあ？ そんな筋書きは映画には出てきませんけど……。第一、トニーの子を宿しているなんて、そんなこと分らないのでは？

「よく考えてみてください。彼女の名前はマリアです、トニーと一夜を共にしました。ラスト・シーンでは、崇高な深紅色のワンピースを着ています。寒い季節の設定ではないのに、若者がマリアに黒いショールを頭から掛けます……このワン・シーンは何かを暗示しているのです……マリアのあの姿……そう、聖母マリアの受胎告知なのです、あのシーンは……」

—えーッ、そんな見方があったの!? 初めて聞きました、公然の秘密ですか？ 「いえ、私の個人的解釈です。ロバート・ワイズ監督はそれを意図してあのシーンの演出をしたのだと、35年前にフランスとスペインの美術館で宗教画を多く見た

時に私はインスピレーションを感じました。結末は悲劇であるが、絶望の底から一筋の希望の光を見出す、そんなことを監督は描きたかったのでは。」

—うわー、そういう解釈ができるんですか?! これは大発見の気がします。今日はどうも興味深いお話をありがとうございました。伺ったことをふまえて、もう一度この映画を観てみます。

「待つて待つて……！ 未だ終わっていません、クレジット・タイトルの話が残っています。最後に出演者や製作者の名前が出てくる字幕、あれのことです。」

映画のストーリーが終わるとすぐ椅子を立つ人、携帯電話を見る人……映画というものを分かってない人達ですねえ、嫌ですねえ。で、この映画では文字の羅列・行進、所謂タイトル・ロールではなく、茶色のレンガに白いペンキで落書きっぽく書かれた文字が映し出されます。カメラが次々に移動していくので、名前が少し探しくく、読みにくい感じはしますが、この時代の映画では珍しい、斬新な手法です。と言っても、一九四六年製作の『荒野の決闘』では、道案内の木の看板、これの焼印文字が映されてましたから、発想はそれと同じですね。」

—あ、はい、映画は最後まで観ているということですね、分かりました。本日は本当にありがとうございました。

「いいえ、こちらこそ話しが長く細かく脱線も多く大変恐縮でした。長時間お付き合ひ頂き有難うございました。これでも話は本来の3分の1なんです……」

今回は、西部劇『荒野の決闘』の話を

致します。お楽しみに。サイナラ、サイナラ、サイナラ（ニギニギ）。以上

「柳川市街の航空写真」
高18 十時理展

先日 九州に行く用があり10月27日朝佐賀空港より東京に戻りました。当日は、台風27号が去った台風一過の晴天で、佐賀空港を離陸するとすぐに左眼下に、柳川の町がみえました。あわてて写真に収めた一枚が添付のものです。遠景でわかりにくいのですが、手前の方は両開の田園地帯、中央に簡保の宿、柳城中学、柳川高校、市役所、その奥に伝習館が見えます。

新しい建物が増え、街の様子はだいぶ変わってきましたが、空から見る柳川は何とも言いえない懐かしさを感じます。この写真を、先日福山君、白谷君らと飲んでるうち「この写真、会報に乗せたら」と盛り上がり、お送りすることになりました。



↑ 見つけてください！ 伝習館はどこでしょう？ ↓



学年だより

高三回生 青春の契(ちぎり)「二人展」と同期会

酒井清行

絵画の「二人展」は9月29日(日)

10月5日(土)まで

1週間、JR有楽町駅前東京交通会館(B1ゴールドサロン)において開催された。

相浦利祐さん・新谷弘之さんの二人は伝習館の中学・高校の六年間、美術部に在籍し、大学時代や職務の傍ら絵筆をとってきた。

二人とも、大学生時代に京都(同志社大学・立命館大学)を拠点に活躍し、グループ展で一席にも入選している。

卒業後、相浦さんは実家の相浦洋品店(柳川市中町六)を継ぐために帰柳。新谷さんは大手銀行を転勤しつつ、支店長も勤めあげて退職。

シルバード期に入り二人とも本格的に絵を



再開し、互いに心中に期するものがあり、今回の「二人展」を有意気投合。実現の運びとなった。

展示では相浦さんは南阿蘇の朝霧の佇まいや、花を中心に描き、やわらかい自然の明るさと、変化の様子をとらえた作品。新谷さんは、力強く、ハチミツ色を

感じさせるスペインの街角風景や長崎のオランダ坂など対照的な持ち味を見せた作品。

出展数は相浦さん30点、新谷さん22点と豪華で、はなやいだ雰囲気を作り出していた。

先輩の成清良孝(中56回)さんや同期生がオープニングの日から多数鑑賞に来場した。一般客も立寄って盛会であった。

かたや、同期会は10月1日(火)12時半より、「二人展」の会場の近くの茜屋(あかねや)銀座4丁目店で開催した。幹事の予想ではせいぜい20名程度の出席者を予測していたところ、嬉しい誤算で34名(うち女性10名)もの多数が参加。

会場が狭すぎることとなり、全員一緒に写真撮影ができず残念であった。(以下敬称省略)

遠く長崎(坂井親義)、神戸(逸見萬丈)、山形(二郡辯)、柳川・久留米(相浦利祐・吉田澄人・富安武美・高巢研三)の遠方組7名の参加で賑やかに話が弾み、高校生時代の青春気分を満喫し、いつまでも話は尽きることはなかったが、15時30分に解散した。帰路「二人展」の会場に立ち寄って十数名で盃をあげ、お祝いをした後、次回の再会を期して別れた。

幹事

酒井清行
高椋重夫



同期会出席者名簿(2013・10・1)

- 相浦 利祐
- 石橋 雅史
- 菅家 由紀子
- 一郡 辯
- 井口 茂樹
- 木村 朱水子
- 松崎 美年子
- 加藤 和太郎
- 古賀 洋一
- 後藤 一彦

- 酒井 清行
- 坂井 親義
- 村井 タカ子
- 新谷 弘之
- 関 雅好
- 高巢 研三
- 高椋 重夫
- 高山 久吾
- 田中 穂積
- 長谷川千恵子
- 樽見 真治
- 中村 好子
- 柳沢 一彦
- 久米 ヨシ子
- 富安 武美
- 藤木 豊子
- 原田 俊雄
- 白井 ヒロエ
- 逸見 萬丈
- 山下 元生
- 吉田 澄人
- 吉原 稔
- 塚田 時子
- 高口 僚太郎

高5回
悲しみ・喜び「ふくの会」

野口幹彦

昭和29年卒に語呂合わせで名付けられた第33回目のふくの会(在京同期会)を、平成25年11月6日(水)、日比谷公園内

の日比谷パレスで開催。今回は旧3年8組が幹事役の世話人を担当。

遠来者は、マレーシアから岡一之君、柳川から本吉湊君、諸藤仁子さん、大分から龍昌生君、大阪から逸見猷二君、そして愛知から石橋清君が参加。厚みのある「ふくの会」になった。

卒業後、60年目を迎え後期高齢を進行中の78歳前後のシニアが28名。まずは会場前の公園の緑をバックに屋外での記念撮影。

平成25年11月現在で、松永肅君(東京同窓会副会長)と目野泰子さんの2人の学友が、落花枝に帰らず来世へと旅立った。沖美津正君が先導、黙禱のあと、松永夫人の悦子さん(同期生)は急逝した肅君の過ぎ来し方についてあじわい深く語り、一同、神妙に聞き入った。

そのあと、全員が近況を談話風に語った。本吉君は、同窓会の柳川・福岡・東京を「三本の矢」に例え、興味深く話してくれた。病気の自慢話?はよくあるが、平野善一君は、自身の病気手術前後をくわしく報告し、うなづく面々も見られた。

下河秀行君からは、柳川観光大使に金子市長より任命され、就任式に合わせ白秋祭でにぎわう柳川にツアーを組み訪問したとの報告がなされた。

お土産は、ささやかだが、沖君が手配して取り寄せてくれた郷里の『山川みかん』。

同期生には、俳句・短歌をたしなむご仁がかなりいる。当日、披露された俳句を紹介して「ふくの会」報告とする。

☆

蝉の声親しき友は石の下 龍 昌生
月山や喜寿登山に台風(かぜ)嶮し
阿津坂林太郎



出席者の半分以上が白髪混じり「ふくの会」の面々(撮影:古賀弘君)

高6回 「三稜会」

石橋 修

高6回卒の同期会「三稜会」が3月16日、東麻布の古賀讓次君の店「フロイデ」で開催されました。西暦奇数年に集まろうと話し合って決めて、これで連続6回目の奇数年開催となります。

伝習館東京同窓会が偶数年に開催されますので、毎年顔会わせができます。出席者は12名。定番の川口鍵

寿郎君の開会挨拶に始まり、池田勝嗣君の司会で進行していき

ました。讓次君お手製の自慢料理、ビーフシチューに舌鼓をうちながらアルコールは好きなのを勝手に注文し、12時開始から延々16時まで続きました。宴の最中、柳川の古賀勇生人君から皆さんで食べて下さいと、郷土産のミディトマトの宅急便が届き、全員で分けて持ち帰りしました。フルーティな郷里の香り高いトマトに一同大感激でした。

「古賀勇生人君ありがとう！」

話は昭和の大作曲家・古賀政男の甥っ子、古賀讓次君の生い立ちから腕白時代の柳川や伝習館の頃の逸話へと盛り上がりました。高木健君の新興株の見極めと買い方や、岡田哲也君の海外旅行の飛行機便の安いキップ



2013.03.16

の求め方など得難い話も出ました。

夫々の健康法の話になると、みんな次々と喋り出し、讓次君のカラオケの勧めもどこへやら、進行役の池田君が割って入って時間制限する始末でした。

各々の健康法の披露後、仰向けにひっくり返り手足をブラブラさせる「ごきぶり体操」が、高齢者には最も適当だろう

写真は左より

川口鍵寿郎、岡田哲也、高木 健、井手 真、森 清貞、田中 稔、古賀讓次、石橋 修、戸上軍治、白谷茂満、池田勝嗣、木村（松本）峯子（敬称 略）

という結論に落ち着いた次第です。

今回は突然のぎっくり腰や、検査入院あるいは体調を崩したなどなど、思わぬドタキャンがありました。次回も「フロイデ」で開催することになりましたので体調管理に留意され、多数の同期の皆さんが参加されますよう期待しています。

高十二回生 同期『くっぞご会』

小野アケミ

平成二十五年十月二十七日(日) 東京赤坂山王健保会館(木都里亭)にて開催

出席者 二十九名

九州柳川より四名 関西兵庫より一名

台風二十六号に続く二十七号で天候を心配しましたが当日台風一過良い天気にも恵まれて楽しい一日をすごす事が出来ました。

来年も開きます。今回欠席の方達も次回の参加をお待ちして居ります。



第30回「くっぞご会」 2013.10.27 東京赤坂 山王健保会館(木都里亭)

石塚武美、江口清次、尾田常昭、加藤紘平、椋島紘志、白尾邦久、滝口晴夫、田中省三、中島憲三(関西兵庫より)、野上一治、野田幸治、葉玉真紀、林孝昭、原田健治郎、廣松勝彦、福本義人、藤生廣来(九州柳川より)、藤吉悌二、町野彰(九州柳川より)、松藤勝美 男性20名 板橋美智子(九州瀬高より)、梅崎紀子、小野アケミ、小畑タエ子、古賀昭子(九州柳川より)、古賀アヤ子、馬場敦子、馬場康子、村上国子 女性9名

高13回生（昭和37年卒業） の同期会報告

田中利道

古稀祝いの東京同期会を10月19日（土）に地上200米の新宿三井クラブで開催しました。今回は九州（4人）、大阪（1人）からの参加者を含め総勢24人の参加となり、それぞれに卒業以来およそ半世紀振りの再会という人も多数いて、一次会（新宿三井ビル54階・三井クラブ・12時開始）、二次会（新宿駅・西口カラオケ館・18時半終了）と6時間半の長きに亘り大変な盛り上がりとなりました。最後には「お互いに健康管理を一層心がけ、7年後の東京オリンピックの年に喜寿祝いの同期会を是非とも開催して再会しましょう」と約束しての再開となりました。

写真：上段左から松本巖、成清謙爾、池末洋、吉原時男、石井泰彦、西雅治、岡部彰邦、三段目左から西山照子、松藤三千代、石橋正通、石橋幸敏、池口正徳、鳥巢晃一、斎田宗生、二段目左から蒲池和枝、松本文子、坂田幸子、尾崎カツエ、甲木久美、原田万紗子、山田孝輝、前列左から吉開正信、尾田義昭、田中利道



高校20回生同期会 なんしよる会

白谷政則

五月十八日（土曜）開催 敬称略
 一日コース 9:00 巢鴨駅 相見るり
 子 井口ちづ子 及川ちづ子 大熊清美
 岡賢二 塩田佳世 白谷政則 東寛治・
 富士子 宮地秀巳 10名

朝早いので2〜3人なら中止しようかなあと思っていたら10名参加、とげぬき地蔵から文京区の閑静な住宅街を歩き、六義園をのんびり散策。浅草で昼食を予定していたが、三社祭で混んでるだろうから東大の学食で早めにお昼にしよう

バスで移動。東大も五月祭（学園祭）で構内は混雑し模擬店の呼び込みや人の流れをかき分け、安田講堂下の学食で小休止（カレーライス230円、定食480円と安い！）。赤門から地下鉄へ向かう途中『万歩計が一万超えている』と誰かが言う、確かに朝からよく歩いたがまだまだ今日の予定の半分である。

半日コース 14:00 浅草水上バス乗り場

鴨田秀子 古賀柳治 田渕正 松本初美 4名合流

浅草は雷門から水上バスまで100mなのに10分も要する程の大混雑だったが定刻前に皆さん集合。水上バスから見るスカイツリーとウン○ビル、隅田川に掛かる何本もの橋、築地市場の荷揚げ場など浜離宮までの40分間は充分楽しいが隅田川から浜離宮へ大きく右カーブしながら水門をくぐり左カーブし接岸する時が一番かな？（個人的な感想）。浜離宮は25万㎡と六義園の3倍くらい広く朝から歩きづめで疲れたのか一人ダウン、他の皆さんは元気に一周し、さすが將軍家の庭園と感嘆しきりであった。しかし將軍家（現宮内庁管轄）の庭で昼寝するとは大した度胸だなあ！

夜コース 17:00 六本木（…とあるお店）

秋田章二 石橋康治 大橋佐知子 海東信子 古賀輝博 近藤敬介 佐藤千賀子 末松美智子 高巢和登 藤丸昭徳 宮島政信 11名合流 合計25名

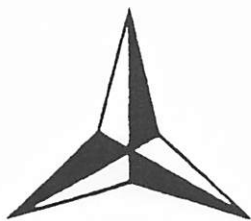
まず乾杯し自己紹介、その間飲み放題食べ放題しゃべり放題、まるで店内は柳

川の駅前かと思えるようでも誌面に載せられませんが三時間はあつという間に過ぎてしまいました。
 二次会 20:00 六本木（同じ店） 15名参加

ここから一般のお客も入店して来たがこの15名は元氣一杯で、まだまだ柳川の雰囲気は続く：ようやく二次会もお開きになりほっとするより早く三次会の相談、あえて名は伏しますが10名ほど夜遅く迄楽しみました。ちなみに私は朝7時に家を出て帰宅は深夜1時過ぎ、私が一番楽しんだようです。

今回は柳川から5名参加されました。これから仕事も一段落し参加者はもつとふえると思います。初めてなので：と躊躇されてる方、楽しいこと請け合いです。ぜひご参加下さい。

次回のなんしよる会は平成27年5月頃トリックアート美術館&高尾山 早めに解散で予定しています



ふるさと瓦版



新たな舞台で披露された「敦盛」

▲「広報みやま」2013年11月号

新しい舞台で初上演

新開能

10月17日、県指定無形民俗文化財「宝満神社奉納能楽」が宝満神社(高田町北新開)で奉納されました。1716年に柳河藩主が祈願成就のため、能楽を奉納したのが始まりとされる新開能。この日は、「敦盛」や「附子」など八つの演目が披露され、来場者を魅了しました。

また、上演前には能舞台の落成式が行われました。これは、奉納に合わせ氏子たちが毎年組み立てる舞台の、柱や梁などの全て部材が新しくなったためで、以前の舞台は200年以上使われた柱もあったそうです。

イベント

瀬高中学校同窓会設立60周年
記念長唄「杵屋勝国」帰郷公演

■日時 11月23日(祝)

開場 午後2時30分

総会・開演 午後3時

■場所 まいピア高田

■演目 「若き日の夢」「流れ」

「柳橋」抄曲集「二人挽久」

■入場整理券

1,000円

中学生以下 500円

※瀬高中学校に寄附させていただきます。

※どなたでも参加できます。

瀬高中学校同窓会 江崎

(TEL) 080・8352・3453

▲「広報みやま」2013年11月号
杵屋勝国さんは伝習館高14回同期

百年後の大川の子どもたちが
「ありがとう」と言ってくれる大川をめざして。



鳩山新市長

鳩山 二郎(はとやま じろう)
年齢 34才
経歴 鳩山邦夫私設秘書、法務大臣政務秘書官、
鳩山邦夫公設第二秘書
座右の銘(好きなことば) 特になし。会った人の
話をしっかり聞き、相手と正面から向き合う
ことを信条にしている。
趣味 映画(ウディ・アレンのファン)・音楽鑑賞、
父親ゆずりで料理まめ。リゾートが得意。

▲「市報おおかわ」2013年8.1号



特集 柳川の御花

275年の歴史を誇る国指定名勝

江戸時代に柳川藩主であった立花家の歴史を伝える貴重な文化財として、国の名勝指定を受けている「立花氏庭園」。現在、明治末期に建設された西洋館や門番詰所など劣化が激しい部分の補修を、国と県、市、御花が協力して行っています。柳川の重要な観光資源の1つである御花の歴史と魅力を紹介します。

藩主の子どもや側室が住み大名庭園を持つ「御花島」

花という名前は、江戸時代の元文3（1738）年、5代藩主貞俣によって整えられた「御花島（畑）」という屋敷の呼び名が元になっています。

貞俣の子どもや側室、女中などが暮らす生活の場、いわゆる「奥」は、もともと享保7（1722）年に柳川城内に建設された二ノ丸御殿でした。

しかし、子どもが多く生まれ、「奥」で暮らす人数が増えたので、二ノ丸御殿で暮らすには狭くなり、貞俣は城の南西の隅に「奥」の屋敷を移しました。

これ以降、御花島は、参勤交代で江戸と柳川を行き来する藩主が、国元でくつろぐ私的な場所となります。

また、御花島には庭園も造られていました。現在残る松濤園の東側に、当時の庭園の面影が残っています。御花島庭園の様式は、大きな池の周りを巡りながら鑑賞して歩く回遊式庭園。熊

御花と柳川のあゆみ 歴史かんたん年表

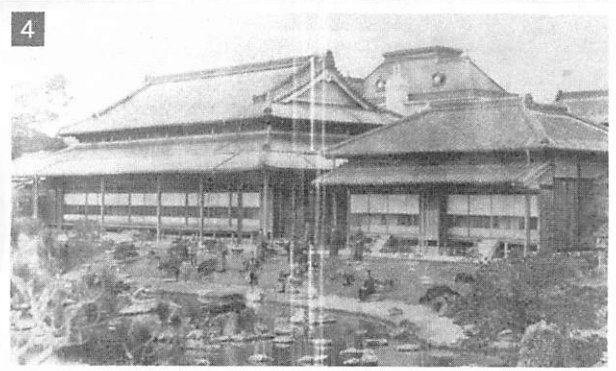
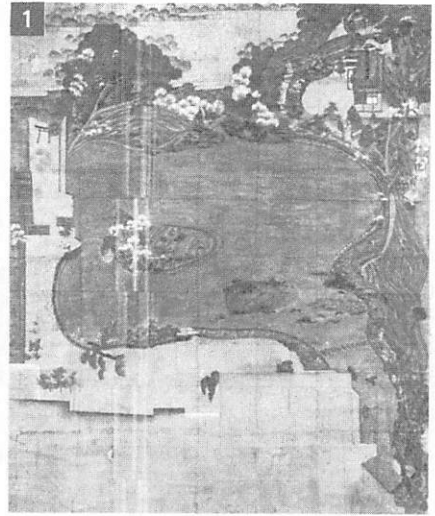
（西暦）

（主な出来事）

1567	立花宗茂（高橋紹連の子、幼名千熊丸）誕生
1575	戸次道雪が7歳の娘、閨千代に家督を譲る
1587	宗茂、豊臣秀吉より筑後3郡を与えられる
1600	関ヶ原の戦いで西軍敗北。宗茂、柳川城開城
1601	田中吉政、筑後国主となり柳川城へ入城
1602	宗茂の正室閨千代、肥後玉名郡腹赤村で死去
1609	田中吉政、伏見で死去。四男の忠政が後を継ぐ
1620	忠政死去。田中家断絶
1621	宗茂、陸奥棚倉から筑後柳川へ。柳川城入城
1638	立花忠茂が2代藩主に
1642	宗茂、江戸で死去、76歳
1664	立花鑑虎が3代藩主に
1696	立花鑑任が4代藩主に



1 御花畠庭園図 (江戸時代中期) / 2 竣工当時の西洋館 (明治42年) / 3 14代当主立花寛治肖像 / 4 完成当初の松濤園と大広間、御居間 (明治末期) / 5 現在の松濤園と大広間、御居間 ※1~4は立花家史料館提供



※国指定名勝「文化財保護法で、国が指定した文化財の種類の一つ。公園や庭園、湖沼、火山など、国土美として欠くことができず、名所、学術、芸術として価値が高いもの

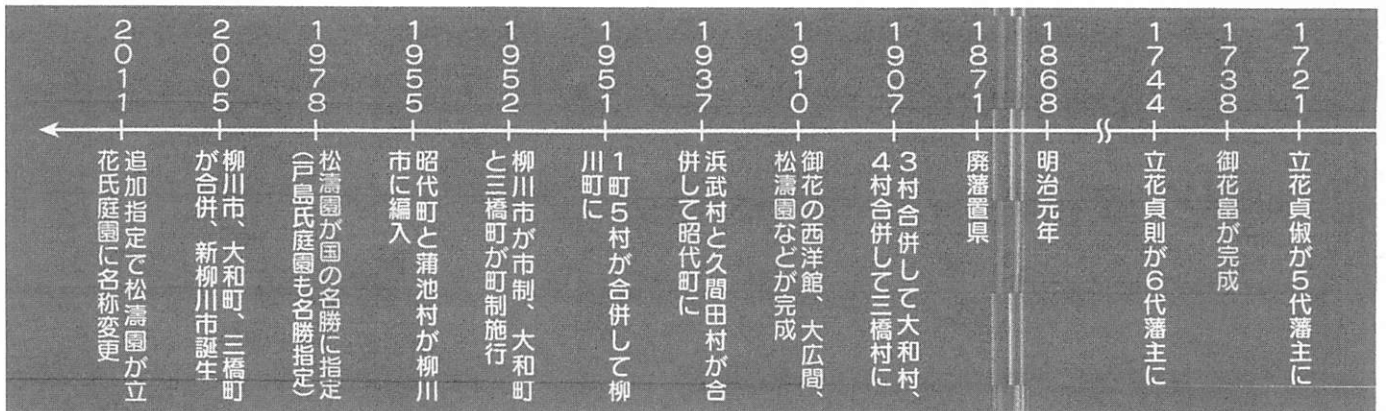
本県にある細川家の水前寺成趣園や鹿兒島県にある島津家の仙巖園など、多くの大名庭園に採用されているものです。四季折々の変化を楽しめるように、サクラやモミジなどの樹木やシヨウブなどの植物が植えられていました。

西洋館や松濤園が造営 そして国指定名勝へ

川藩最後の12代藩主で、立花家13代当主の鑑寛は、明治4(1871)年の廃藩置県以降、東京の旧上屋敷で暮らしていましたが、隠居すると明治11年に柳川に移り住みます。鑑寛は、御花畠で暮らすに当たって、敷地内に「御隠邸」「御本邸」の他、能舞台などを造りました。鑑寛の後を継いだ14代当主寛治が、明治22年、柳川に帰郷。屋敷の修理や「御宝蔵」の再建、明治36年に御隠邸の移築、翌37年に「御佛殿」を建設しました。

また、寛治は明治43年に、接客のための「西洋館」「大広間」や、家族が暮らす「御居間」、御花を取り仕切る「家政局」などの屋敷を完成させました。そして、大広間に面した、クロマツで池の周りを囲む華やかな「松濤園」もこのころに造営。現在の御花の原型ができたことになりました。

その後、昭和53年に、西洋館や大広間、松濤園などが国の名勝に指定。平成23年に追加指定を受けて、御花の敷地すべてが国指定名勝となりました。



新刊紹介

海外・四方山話

よもやまばなし

江崎 正直

目次

まえがき

序章 海外見たまま、聞いたまま

第一章 エルミタージュと北欧

第二章 文明の十字路を訪ねて（トルコ）

第三章 石造文化のルーツを訪ねて（エジプト）

第四章 スペイン紀行（スペイン）

第五章 東欧雑感

第六章 モロッコ雑感

第七章 街頭の入れ歯売り（続・モロッコ雑感）

第八章 オーストラリア雑感

第九章 旅順（中国）

第十章 水師營の会見（中国）

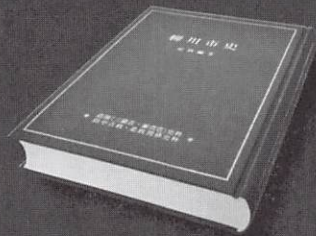
第十一章 韓国を訪ねて（韓国）

第十二章 米国の従姉妹を訪ねて（米国）

新刊 市史

柳川市史『史料編Ⅱ』

* 荘園（三瀨荘・瀬高荘）史料／田中吉政・忠政関係史料*



三瀨荘・瀬高荘の荘園史料として、平安後期から戦国時代まで柳川市域（旧三瀨郡・山門郡）一帯に広がっていた三瀨荘、瀬高上・下荘関係の史料を取録しました。柳川の古代未から戦国時代にかけての基礎史料集です。特に、国指定重要文化財「鷹尾神社大宮司家文書」のうち、中世の古文書 127 点を全文翻刻し、写真も取録。また、田中吉政・忠政関係史料として、田中（吉政・忠政）家に関係する史料を、吉政の出生した近江時代からのものも含めて 377 点取録しました。A4 判・縦組、754 ページ、価格 3000 円（税込）

柳川文化資料集成第3集 13 『柳川美術Ⅲ』



柳川市のうち、旧大和町・三橋町の寺社について、平成 18 年から 24 年まで 7 年間行った 115 件の寺社の調査結果を掲載しました。併せて、旧柳川市内の寺社、立花家や旧藩士家に伝わった文化財、近代の絵画などの補充調査とともに、清楽寺（中山）にかつてあった金銅板両界曼荼羅（国指定重要文化財）や、安東家に伝わった琴、富士山画家である柳川出身の龍駿介の作品なども取り上げました。A4 判・縦組、402 ページ、付索引・月報 18、価格 1500 円（税込）

市は、2冊の新しい市史を刊行しました。柳川古文書館の他、白水堂書店、トミヤ、Bookのあんとかやながわ店、みずま店、古雅書店の各書店でも購入できます。
なお、柳川市史『史料編』はこれで完結しました。
問い合わせは、市生涯学習課市史編さん係（☎72・1275）へ。

賛助金のお振込方法

① 同封の郵便振替用紙による

② 銀行振込による

銀行名 三菱東京UFJ銀行 銀行コード(0005) 支店名 駒込支店 店コード(061)
普通預金
口座番号 1073673
口座名 伝習館東京同窓会

いずれのお振込の場合にも必ず回生又は卒業年度をお書き下さい。

広告募集

チラシ広告

対象は東京同窓会会員向けに製品・商品・営業内容などをPR、販売したい方。

○チラシ三千部を作成し(フォーム自由)事務局宛(P33参照)送付下さい。会員への会報送付時に同封郵送します。

○広告代金は一件につき貳万円を賛助金として頂きます。

会員の皆様からも、希望業者の方をどしどしご紹介下さい。

募集中!

1. 表紙絵・表紙用写真
2. 原稿—伝習館OBならダッデンヨカバンモ

○テーマ自由(同窓会報にふさわしいもの)
小説・随筆・詩・短歌・俳句・川柳・絵画・写真・絵手紙、書など

○字数制限なし(極力四〇〇字詰め(20×20)原稿用紙使用)
写真・絵・カット添付可

○表題・投稿者氏名・卒業年度・総字数を書いて下さい。

—原稿送付先—

〒344・0032

春日部市備後東8・8・32

伝習館東京同窓会 小野 善睦 行

☎・FAX 048・735・2431

編集後記

○立花家と伝習館の関係については、既刊の会報でもお知らせし、総会でも講演、ご一家の皆様にご登壇頂き、紹介致すことができましたが、いつも同窓会や同期会でお世話になってる「御花」については、皆さん、あまり詳しくはないと思います。たまに「広報やながわ」昨年10月号でも5頁にわたって掲載しましたし、また表紙裏に紹介しました現代日本漢詩界の重鎮、石川先生の漢詩も発表されましたので特集しました。

○お詫びして訂正/前13号表紙裏の写真「川下り」の中で、上段の写真の撮影者は同窓会顧問・元伝習館校長西山彰氏でした。お詫びして訂正します。

○現在の編集委員は次の通りです。

小野 善睦(高2)

内山 秀生(高10)

永倉(跡部)素子(高10)

江崎 正直(高2)

副会長 原田(立花)万紗子(高13)

発行責任者 江崎正直

〒156・0043

東京都世田谷区松原3・39

25・801



伝習館東京同窓会事務局

〒170-0003 東京都豊島区駒込3丁目3-19 千鳥屋方

TEL 03(3915)0865 FAX 03(3918)8139

http://densyukan-tokyo.jp/

伝習館東京同窓会学年幹事名簿 平成25年12月現在

卒業年次	氏名	卒業年次	氏名	卒業年次	氏名
中学第48回	宮本弘道	同上	高木節子(堤)	同上	泉孝子
中学第49回		第15回		第35回	田中铁郎
中学第50回		第16回	柘嶋正司	同上	橋本知彦
中学第51回		同上	水澤昭子(田中)	第36回	松藤 亘
中学第52回		第17回	北島文之	第37回	江口一元
中学第53回	古賀和典	同上	北野すえ子(潮井川)	第38回	金子千恵美
中学第54回	原 朗	第18回	福山博彰	第39回	高橋 徹
同上	山崎清勝	同上	十時理展	第40回	田中貴士
中学第55回	江崎和夫	同上	満生英二	第45回	浦 裕美
同上	小泉祐一郎	第19回	芹川季代子(立花)	第48回	山内朋彦
中学第56回	鬼丸敏男	同上	田中茂利	第49回	
同上	成清良孝	第20回	高巣和登	第50回	河内慎治
高校第1回		同上	岡 賢二	第51回	大曲由起子
第2回	石崎知見	同上	近藤敬介	同上	西田大樹
同上(会長)	江崎正直	第21回	白原正道	第55回	武下優子
同上(編集委員長)	小野善睦	同上	白谷政則	同上	松尾晴菜
第3回	酒井清行	第22回	北原富美男	同上	龍 幸弘
第4回	荒井健之輔	第23回	成田八重子	第56回	木村陽佳
同上	丸勢正夫	同上	樋口貴美子(田上)	第58回	市川広大
同上	渡邊喜亮	同上	高田健二	同上	廣松綾香
第5回	岸 栄洋	第24回	酒見和平	第59回	川口 惇
第6回	石橋 修	第25回		同上	廣松浩司
同上	戸上軍治	第26回	藤吉旭水	同上	古賀康之
同上	高木 健	第27回	高橋圭介	同上	深町日出海
第7回	龍 弘道	同上	松藤峯成	第60回	
同上	永江嵩子(測上)	第28回	吉開孝人	第61回	江崎崇浩
第8回	樋口誠佑	第29回	斉藤慎吾	同上	植木 智
第9回	原田光紀	第30回	橋爪政男	第62回	亀崎元貴
第10回	内山秀生	同上	小野弘美(中山)	同上	古賀康孝
同上	永倉素子(跡部)	第31回	池末利活	同上	中村知永
第11回	永尾弘行	同上	永田日出樹	同上	本園雄也
第12回	小野アケミ(岸川)	第32回	守谷由佳(富重)	第63回	野中 優
第13回	田中利道	同上	森永 明	学生	小柳真咲
同上	尾田義昭	同上	一木リョウノスケ	学生	廣松 亮
同上(副会長)	原田万紗子(立花)	第33回		学生	中川原雄太
第14回	石橋俊一	第34回	大津志保	学生	松永 陸

幹事未選出の学年は至急選出して事務局までご連絡下さい。

「裏表紙解説」 墨象3点 作者/高5~木村松峰(峯子)

上段
FORCE [超能力]
縦76cm 横97cm

パリのルーブル美術館別館「ルーブル・ランス」のグランドオープン記念『黄金の翼大賞』受賞作
ポスターとして永久収蔵
作者コメント: FORCEとはアメリカの映画に登場する架空のエネルギー帯のことで、生命体から無機質まで、色々なものを包んで満たし未来を予測する力、他人の心を探る力や、触れずに物を動かしたりする力など、超常的な能力の源です。
力のみなきった世界への発展を祈りながら描いてみました。

中段
the past, the present, and the future [現在、過去、未来]
縦32cm 横46cm

ベルシー悠久のシンフォニー美術家賞
作者コメント: もの寂しげに過去をみるな、それは二度と戻ってこないものだから抜け目なく現在をおさめよ、それは汝だ
影のように未来に向かって進め、怖れずに雄々しい勇気を持って
・・・という名言がありますが、このような気持ちを墨象にあらわしてみました。

下段
昇る朝日 [太陽]
縦76cm 横97cm

オーストリア ザルツブルグ宮殿より『栄誉美術家大賞』受賞作
作者コメント: 海から昇る朝日を眺めるのが大好きです。ピンクと瑠璃色に染まる空が、とても素敵でなんといいえない気持ちになります。時の移り変わりの中で、自然が魅せる一瞬の情景に、胸打たれます。朝日が昇る一瞬を胸に納めておきたいので、この墨象を描きました。
昇る朝日は希望と未来を予期してくれる様で、大好きです。

表紙写真「御花」
提供 高13 原田万紗子氏

表紙ウラ「漢詩」
紹介記事 高2 小野善睦

ウラ表紙「墨象3点」
高6 木村松峰(峯子)氏

ウラ表紙ウラ
高6 木村松峰(峯子)氏

「ウラ表紙解説」
高6 木村松峰(峯子)氏

| 略歴等は会報既刊にて紹介済み |



FORCE [超能力]



the past, the present, and the future [現在、過去、未来]



昇る朝日 [太陽]